

学科到達目標

科目区分	授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数																				担当教員	履修上の区分		
					1年				2年				3年				4年				5年							
					前		後		前		後		前		後		前		後		前		後					
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q				
一般	選択	日本語表現	04101	学修単位	2																						山口比砂, 眞野道子	
一般	選択	保健体育IVA	04102	履修単位	1																						鈴木康平	
一般	選択	英語 I A	04103	学修単位	1																						長岡美晴, 石純子, 藤村すみ	
一般	選択	物理特論A	04104	履修単位	1																						入田賢	
一般	選択	化学特論A	04105	履修単位	1																						三浦大和	
一般	選択	数学特論A	04106	履修単位	1																						勝谷浩明, 齊藤清美	
一般	選択	哲学 I	04108	学修単位	2																						北野孝志	
一般	選択	歴史特論 I	04109	学修単位	2																						早坂泰行	
一般	選択	経済学 I	04111	学修単位	2																						加藤健	
一般	選択	法学 I	04112	学修単位	2																						伊藤潤	
一般	選択	科学英語基礎 II A	04125	履修単位	1																						神谷昌明, 藤村すみ	
一般	選択	保健体育IVB	04202	履修単位	1																						鈴木康平	
一般	選択	英語 I B	04203	学修単位	1																						長岡美晴, 石純子, 出嶋真由美	
一般	選択	物理特論B	04204	履修単位	1																						小山博子	
一般	選択	化学特論B	04205	履修単位	1																						三浦大和	
一般	選択	数学特論B	04206	履修単位	1																						齊藤清美, 笠井剛	
一般	選択	日本語表現	04207	学修単位	2																						山口比砂, 眞野道子	
一般	選択	哲学 II	04208	学修単位	2																						北野孝志	
一般	選択	歴史特論 II	04209	学修単位	2																						京極俊明	
一般	選択	現代社会学 II	04210	学修単位	2																						高橋清吾	
一般	選択	経済学 II	04211	学修単位	2																						加藤健	
一般	選択	法学 II	04212	学修単位	2																						佃貴弘	
一般	選択	科学英語基礎 II B	04225	履修単位	1																						神谷昌明, 出嶋真由美	
一般	選択	日本語 II	04351	履修単位	2																						眞野道子	
一般	選択	保健体育 V A	05102	履修単位	1																						伊藤道郎, 高津浩彰, 加藤貴英, 鈴木康平	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語表現
科目基礎情報					
科目番号	04101	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	授業プリント (随時配布) 「精選 現代文B」 (明治書院) / 「高校漢字の総練習」 (三省堂)、「常用国語便覧」 (浜島書店) 国語辞典				
担当教員	山口 比砂, 眞野 道子				
到達目標					
<p>(ア) 常用漢字を正しく読み書きし、故事成語・慣用句、類義語・対義語を思考や表現に活用できる。</p> <p>(イ) 実用的な文章 (履歴書・手紙・メール) を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。</p> <p>(ウ) 自分の専門分野に関する用語を思考や表現に活用できる。</p> <p>(エ) 目的に応じて、適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に伝わる小論文を作成できる。</p> <p>(オ) 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	常用漢字を正しく読み書きし、故事成語・慣用句、類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	常用漢字、故事成語・慣用句、類義語・対義語を正しく読み書きできる。	常用漢字、故事成語・慣用句、類義語・対義語を正しく読み書きできない。		
評価項目(イ)	実用的な文章 (履歴書・手紙・メール) を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	実用的な文章 (履歴書・手紙・メール) の基本的な書き方が理解できる。	実用的な文章 (履歴書・手紙・メール) の基本的な書き方が理解できない。		
評価項目(ウ)	目的に応じて、情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に伝わる小論文を作成できる。	目的に応じて、情報収集を行い、収集した情報を分析・整理できる。	目的に応じて、情報収集を行い、収集した情報を分析・整理できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	就活・進学・社会生活に必要な日本語コミュニケーション能力を養う。具体的には、履歴書・小論文・自己PR文など、実際に必要となる文章の書き方を学ぶ。特に、自らの考えを、読み手が理解しやすいように表現する方法の基礎を身につけることを目指す。さらに、ビジネスマナーやプレゼンテーション方法などについても取り上げる。				
授業の進め方・方法					
注意点	正しい日本語表現を心がけ、コミュニケーション能力を高めること。x000D 各講義後に必ず復習して、学習内容の理解を深めること。なお、決められた期日までの複数の課題提出を求める。x000D キャリア教育支援プログラムで開講されるビジネスマナー講座やエントリー講座などには必ず出席して、知識を深めること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス (就活・進学・社会生活に必要な日本語能力について)	就活・進学・社会生活に必要な日本語能力について理解できる。	
		2週	敬語の正しい使い方 (1)	相手や目的に応じた敬意表現を用いることができる。	
		3週	敬語の正しい使い方 (2)	相手や目的に応じた敬意表現を用いることができる。	
		4週	ビジネス文書の作成 (1)	実用的な文章を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	
		5週	ビジネス文書の作成 (2)	実用的な文章を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	
		6週	ビジネス文書の作成 (3) 漢字の実践的総合学習	実用的な文章を相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成し、常用漢字を正しく運用できる。	
		7週	分かりやすい文章の書き方・自己紹介書やエントリーシートの書き方 (1)	自分の専門分野に関する用語を思考や表現に活用し、分かりやすい文章を書くことができる。	
		8週	分かりやすい文章の書き方・自己紹介書やエントリーシートの書き方 (2)	自分の専門分野に関する用語を思考や表現に活用し、分かりやすい文章を書くことができる。	
	2ndQ	9週	原稿用紙の使い方・論理的文章の要約	論理的な文章の構成や展開を理解し、要約できる。原稿用紙を正しく使用できる。	
		10週	小論文の書き方 (1)	目的に応じて、適切な情報収集を行い、分析・整理を経て小論文を作成できる。	
		11週	小論文の書き方 (2)	目的に応じて、適切な情報収集を行い、分析・整理を経て小論文を作成できる。	
		12週	小論文の書き方 (3) 故事成語・慣用句、類義語・対義語の総合学習	文章を推敲し、小論文を仕上げる事ができる。漢字の総合学習を表現に活用できる。	
		13週	プレゼンテーション能力 (1)	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	
		14週	プレゼンテーション能力 (2)	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	
		15週	まとめ (学習内容・学習成果を振り返り、整理する)	学習内容・学習成果を振り返り、整理できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	課題	合計	
総合評価割合	50	20	30	100	

基礎的能力	50	20	30	100
-------	----	----	----	-----

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育ⅣA
科目基礎情報					
科目番号	04102	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実技	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	「ACTIVE SPORTS」(大修館書店) 「運動と健康の科学」(鈴木製本所) / プリント ビデオ教材				
担当教員	鈴木 康平				
到達目標					
(ア) 備品を大切に準備やあとかたづけができる。 (イ) 各自の運動能力が把握できる。 (ウ) 基本的な技術を積極的に学習できる。 (エ) 協力してゲームを運営できる。 (オ) テニスの歴史とルールを理解できる。 (カ) 安全に留意して学習を進めることができる。 (キ) 食生活と健康の関係について説明できる。 (ク) 食事のバランスについて説明できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	数人でグループを作り、決められたグループ内のメンバーで協力してスポーツテストが実施できる。	クラス内のメンバーと協力してスポーツテストが実施できる。	協力してスポーツテストが実施できない。		
	テニスに必要な技術を習得し、クラス内のメンバーと協力してシングルスとダブルスの試合が実施できる。	クラス内のメンバーと協力してシングルスとダブルスの試合が実施できる。	協力してテニスの試合が実施できない。		
	健康に対する食生活の重要性を理解し、自らの考えを述べるができる。	健康に対する食生活の重要性が理解できる。	健康に対する食生活の重要性が理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	テニスでは、個人の運動能力に合わせて技術を学習し、試合で積極的に実施できる能力を育成する。また、生涯スポーツとして活用していけるように、試合のマナー、ルールについても学習する。保健では、食事と健康について考え、食生活をコントロールすることによって、健康の維持増進ができるようにする。				
授業の進め方・方法					
注意点					
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	スポーツテスト(握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び)	握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳びの測定を実施することができる。	
		2週	スポーツテスト(50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ)	50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げの測定を実施することができる。	
		3週	スポーツテスト(シャトルラン)	シャトルランの測定を実施することができる。	
		4週	ボールコントロール(グリップ、ラケットコントロール、ボレーゲーム)	グリップの握り方やラケットコントロールが理解できる。	
		5週	ストローク(フォアハンド、バックハンド、半面ゲーム)	フォアハンドとバックハンドの動きが理解できる。	
		6週	3-3のゲーム(ボレー、ストローク、サーブ)	ボレーやサーブの動きが理解できる。	
		7週	サーブ(アンダーハンドサーブ、スライスサーブ、スピンスーブ)	いくつかのサーブ方法が理解できる。	
		8週	スマッシュとロブ	スマッシュとロブについて理解できる。	
	2ndQ	9週	テニスの歴史とルール	テニス歴史とルールが理解できる。	
		10週	ダブルスゲーム	ダブルスゲームの進行が理解できる。	
		11週	ダブルスゲーム	ダブルスゲームが実施できる。	
		12週	シングルスゲーム	シングルスゲームの進行が理解できる。	
		13週	シングルスゲーム	シングルスゲームが実施できる。	
		14週	食生活と健康(栄養、食生活の大切さ、バランス)	食生活と健康について理解できる。	
		15週	食生活と健康(栄養、食生活の大切さ、バランス)	健康維持・増進のための食生活について自らの考えを述べるができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	スポーツテスト	実技課題	保健	合計	
総合評価割合	20	60	20	100	
基礎的能力	20	60	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 I A		
科目基礎情報							
科目番号	04103	科目区分	一般 / 選択				
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1				
開設学科	一般教育	対象学年	4				
開設期	前期	週時間数	1				
教科書/教材	「Reading Success 2」 佐藤明彦 (他) 著 (成美堂) 「実戦演習・基礎英文法」 丸山喬編著 (桐原書店) / 「めざせ100万語読書記録手帳」 (コスモピア)、多読用英語図書 (図書館所蔵)						
担当教員	長岡 美晴, 石川 純子, 藤村 すみゑ						
到達目標							
(ア)高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。 (イ)英文を読んで、目的に応じて必要な情報を捉えることができる。 (ウ)英文を読んで、概要や要点を把握することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安				
評価項目(ア)	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得し、運用できる。	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得している。	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得していない。				
評価項目(イ)	英文を読んで、目的に応じて必要な情報を正しく捉えることができる。	英文を読んで、目的に応じて必要な情報を捉えることができる。	英文を読んで、目的に応じて必要な情報を捉えることができない。				
評価項目(ウ)	英文を読んで、概要や要点を正確に把握することができる。	英文を読んで、概要や要点を把握することができる。	英文を読んで、概要や要点を把握することができない。				
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	実社会で必要な英語のリーディング・スキルを身につけることを目指し、教科書を使って文法問題を解きながら、既習の文法事項を復習しつつ主に速読と多読を中心とした英語の読み方の訓練を行う。使用する教科書で扱う英文のトピックは、ポップカルチャーから社会問題までバラエティー豊かなものである。また、英文読解に必要な基礎語彙の定着のための語彙学習も行う。						
授業の進め方・方法							
注意点	必ず予習をして授業に臨むこと。図書館の英文多読教材を大いに活用すること。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
授業計画							
	週	授業内容	週ごとの到達目標				
前期	1週	トピック：クローゼットの中にある歴史 オリエンテーション	トピックの英文について読解ができる。				
	2週	トピック：クローゼットの中にある歴史 読解・語彙演習 文法：文の要素	トピックの英文について読解ができる。文の要素の演習問題が解ける。				
	3週	トピック：きょうだいの生まれ順 読解・語彙演習 文法：基本文型	トピックの英文について読解ができる。基本文型の演習問題が解ける。				
	4週	トピック：きょうだいの生まれ順 読解・語彙演習 文法：文の種類	トピックの英文について読解ができる。文の種類演習問題が解ける。				
	5週	トピック：バスケットボールのはじまり 読解・語彙演習 文法：動詞・動詞句	トピックの英文について読解ができる。動詞・動詞句の演習問題が解ける。				
	6週	トピック：バスケットボールのはじまり 読解・語彙演習 文法：基本時制と進行形	トピックの英文について読解ができる。基本時制と進行形の演習問題が解ける。				
	7週	トピック：テーブルマナー 読解・語彙演習 文法：完了時制	トピックの英文について読解ができる。完了時制の演習問題が解ける。				
	8週	トピック：テーブルマナー 読解・語彙演習 文法：助動詞	トピックの英文について読解ができる。助動詞の演習問題が解ける。				
	2ndQ	9週	トピック：ミュージックビート 読解・語彙演習 文法：態	トピックの英文について読解ができる。態の演習問題が解ける。			
		10週	トピック：ミュージックビート 読解・語彙演習 文法：不定詞	トピックの英文について読解ができる。不定詞の演習問題が解ける。			
		11週	トピック：驚くべきコアラの生態 読解・語彙演習 文法：分詞	トピックの英文について読解ができる。分詞の演習問題が解ける。			
		12週	トピック：驚くべきコアラの生態 読解・語彙演習 文法：分詞構文	トピックの英文について読解ができる。分詞構文の演習問題が解ける。			
		13週	トピック：コーヒーと健康生活 読解・語彙演習 文法：動名詞	トピックの英文について読解ができる。動名詞の演習問題が解ける。			
		14週	トピック：コーヒーと健康生活 文法：関係詞I	トピックの英文について読解ができる。関係詞の問題が解ける。			
		15週	前学期のまとめ		前学期の内容が理解できる。		
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週		
評価割合							
	中間試験	定期試験	課題	合計			
総合評価割合	30	50	20	100			

基礎的能力	30	50	20	100
-------	----	----	----	-----

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理特論A
科目基礎情報					
科目番号	04104		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教育		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	/ 「理工系基礎 物理学」 吉岡 達士 著 (開成出版), 「力学」 為近和彦 著 (森北出版), _x000D_ 「演習力学[新訂版]」 今井 功 他著(サイエンス社)				
担当教員	入田 賢				
到達目標					
(ア)質点系の振動現象を微分方程式で表現し、解くことができる。 (イ)運動量と力の関係、運動量保存則を使って、質点の運動を予測できる。 (ウ)角運動量保存則を理解し、質点系の回転運動の変化を理解できる。 (エ)力学的エネルギー保存則を使い、質点の動きを予測できる。 (オ)二体問題において、運動方程式を重心座標と相対座標に分けて考えることができる。 (カ)剛体の慣性モーメントを計算し、回転運動について述べるができる。 (キ)剛体の運動を、並進運動と回転運動に分け、運動方程式を立てることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	質点系の振動現象を微分方程式で表現し、応用問題を解くことができる。	質点系の振動現象を微分方程式で表現し、基礎問題を解くことができる。	質点系の振動現象を微分方程式で表現できず、基礎問題を解くことができない。		
評価項目(イ)	運動量と力の関係、運動量保存則を使って、質点の運動に関する応用問題を解くことができる。	運動量と力の関係、運動量保存則を使って、質点の運動に関する基礎問題を解くことができる。	運動量と力の関係、運動量保存則を使って、質点の運動に関する基礎問題を解くことができない。		
評価項目(ウ)	角運動量保存則を理解し、質点系の回転運動に関する応用問題を解くことができる。	角運動量保存則を理解し、質点系の回転運動に関する基礎問題を解くことができる。	角運動量保存則を理解できず、質点系の回転運動に関する基礎問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本講義は、応用物理学で修得した質点および質点系の力学を復習し、多くの演習問題をこなすことにより、力学の理解を深くするものである。系を様々な視点から観察し、解に至る道筋を考えたいうえで問題を解き、その結果の妥当性について検討することが重要であり、物の見方のセンスを高めることを目的として、たくさん演習を行う。				
授業の進め方・方法					
注意点					
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	振動現象 : 振動の微分方程式, 様々な振	微分方程式を使って振動を説明できる。	
		2週	振動現象 : 振動の微分方程式, 様々な振	微分方程式を使って振動の問題を解くことができる。	
		3週	運動量, 運動量保存則 : 運動量と力積, 運動量と外力	運動量と力積, 運動量と外力, 運動量保存則を説明できる。	
		4週	運動量, 運動量保存則 : 運動量と力積, 運動量と外力	運動量と力積, 運動量と外力, 運動量保存則に関する問題を解くことができる。	
		5週	角運動量 : 角運動量保存則, 力のモーメント	角運動量保存則, 力のモーメントを説明できる。	
		6週	角運動量 : 角運動量保存則, 力のモーメント	角運動量保存則, 力のモーメントの問題を解くことができる。	
		7週	力学的エネルギー保存則 : ポテンシャルと外力, 力学的工	保存力とポテンシャルの関係を説明できる。	
		8週	力学的エネルギー保存則 : ポテンシャルと外力, 力学的工	ポテンシャルと外力, 力学的エネルギー保存則を説明できる。	
	2ndQ	9週	力学的エネルギー保存則 : ポテンシャルと外力, 力学的工	ポテンシャルと外力, 力学的エネルギー保存則の問題を解くことができる。	
		10週	二体問題 : 換算質量, 重心に相対的な座標での運動方程式	換算質量, 重心に相対的な座標での運動方程式について説明できる。	
		11週	二体問題 : 換算質量, 重心に相対的な座標での運動方程式	換算質量, 重心に相対的な座標での運動方程式の問題を解くことができる。	
		12週	剛体の運動(1) : 並進運動と回転運動, 慣性モーメント	並進運動と回転運動, 慣性モーメントを説明できる。	
		13週	剛体の運動(1) : 並進運動と回転運動, 慣性モーメント	並進運動と回転運動, 慣性モーメントの問題を解くことができる。	
		14週	剛体の運動(2) : 回転運動の運動方程式, 回転運動の運動エネルギー	回転運動の運動方程式, 回転運動の運動エネルギーを説明できる。	
		15週	剛体の運動(2) : 回転運動の運動方程式, 回転運動の運動エネルギー	回転運動の運動方程式, 回転運動の運動エネルギーの問題を解くことができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					

	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	30	50	20	100
基礎的能力	30	50	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	化学特論A
科目基礎情報					
科目番号	04105	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	なし / 必要に応じプリントを配布する				
担当教員	三浦 大和				
到達目標					
(ア)放射性核種の壊変図を表記できる。 (イ)壊変の形式と半減期の概念を数式で表現できる。 (ウ)放射性同位元素の利用方法を列挙し説明できる。 (エ)遺伝子レベル・細胞レベルでの放射能障害を分類し説明できる。 (オ)全身被曝について、そのレベルや症状を経時変化を説明できる。 (カ)組織レベルの障害や危険度をその被曝度に応じ記述できる。 (キ)放射線の保護方法や効果について説明し、被曝量を推定できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	放射性核種壊変の過程ならびに半減期など必要事項をほとんど表記できる。	放射性核種の壊変概略図を表記できる。	放射性核種壊変のどの過程も表記できない。		
評価項目(イ)	壊変の形式と半減期の概念を数式で表現でき、諸量の算出もできる。	壊変の形式と半減期の概念を数式で表現できる。	壊変の形式と半減期の概念から崩壊定数の半減期の関係式を表現できない。		
評価項目(ウ)	放射性同位元素の利用方法を分野ごとに列挙しどのような性質を利用しているか説明できる。	放射性同位元素の利用方法を列挙し説明できる。	放射性同位元素の利用方法を1つ以下しか列挙できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	一般社会には、放射線に対するアレルギーや恐怖心が根強く存在する。こうした中で工学を志す者は、放射線ならびに放射性同位元素を有効に利用するすべを知識の一つとして持つておく必要がある。事実、多くの工業製品の生産・品質管理には利用されている。そのためには、放射線に関する正しい知識を持ち安全に利用するすべを習得する必要がある。本講義は、そういった放射線に関する基礎的な知識・利用方法・保全といった放射線利用に不可欠な見識・知識を習得することを目的とする。				
授業の進め方・方法					
注意点	第3学年の数学履修を前提とする。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	講義説明ならびに放射線とアイソトープの基礎	安定同位体と放射性同位体を理解し、その発生エネルギーを算出する。	
		2週	放射線に関する諸量と単位	放射線に関わるベクレル・シーベルト・グレイといった単位を利用分野によって使い分けられる。	
		3週	元素の内部構成とエネルギー	元素の内部構成を理解し、関連するエネルギーをeVやJといった物理量で算出できる。	
		4週	自発核分裂と壊変の法則	壊変様式を理解し、壊変図の表記や壊変過程を表記できる。	
		5週	天然放射性核種と人工放射性核種	天然に存在する放射性核種と人工の放射性核種の分類と発生過程を理解する。	
		6週	照射線量と被曝量	照射線量と被曝量の相違を理解し、その生体分子への影響を理解する。	
		7週	放射線の生体作用 (原子・分子レベル、細胞レベル・組織レベル)	放射線の生体作用への影響特に原子・分子レベル、細胞レベル・組織レベルについて理解する。	
		8週	放射線の生体作用 (臓器レベル、身体レベル)	放射線の生体作用への影響特に臓器レベル、身体レベルについて理解する。	
	2ndQ	9週	被曝の確率的影響	被曝に影響である、しきい値の存在しない確率的影響に分類される影響の種類と重篤度について理解する。	
		10週	被曝の確定的影響	被曝に影響である、しきい値の存在する確定的影響に分類される影響の種類と重篤度について理解する。	
		11週	放射性核種の分離とイオンの性質	放射性核種の形成するイオンの性質とその分離方法を理解する。	
		12週	化学的・生物学的放射性核種の利用	化学分野や生物分野における放射性核種の利用例を学習する。	
		13週	分析的放射性核種の利用	分析分野における化学的放射性核種の利用例を学習する。	
		14週	放射線に対する防護	放射線の防護を行う手法を理解する。	
		15週	前期のまとめ		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	課題	合計		

総合評価割合	70	30	100
基礎的能力	70	30	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学特論A
科目基礎情報					
科目番号	04106	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	「新編 高専の数学 2」 (森北出版) ISBN:978-4-627-04823-2_x000D_				「新編 高専の数学 3」 (森北出版)
ISBN:978-4-627-04833-1/教材プリント					
担当教員	勝谷 浩明, 齊藤 清美				
到達目標					
<p>(ア)ベクトルの概念や演算を理解し, 基本的な計算や応用ができる。 (イ)ベクトルを利用して平面図形や空間図形に関する問題を解ける。 (ウ)行列の概念と演算とを理解し, 和・差・積・逆行列などの基本的な計算ができる。 (エ)行列式の概念と性質とを理解し, 行列式の計算ができる。 (オ)掃き出し法の原理を理解し, 掃き出し法を用いて逆行列を求めたり連立方程式を解いたりできる。 (カ)線形変換と行列との関係を理解し, 行列を用いて線形変換に関する問題を解ける。 (キ)固有値・固有ベクトルが求められ, 行列の対角化ができる。 (ク)行列の対角化を利用する問題を解ける。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目1	ベクトルを用いて図形に関する応用的な問題を解ける。	ベクトルを用いて図形に関する基本的な問題を解ける。	ベクトルを用いて図形に関する基本的な問題を解けない。		
評価項目2	行列及び行列式に関する応用的な問題を解ける。	行列及び行列式に関する基本的な問題を解ける。	行列及び行列式に関する基本的な問題を解けない。		
評価項目3	線形空間及び線形写像に関する応用的な問題を解ける。	線形空間及び線形写像に関する基本的な問題を解ける。	線形空間及び線形写像に関する基本的な問題を解けない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科目では, 低学年の線形数学の科目で学んだベクトル・行列・線形変換の内容について, 既習事項を簡単に復習して問題演習を行う。幾つかの項目では既習ではない発展的な内容も扱う。ベクトル・行列・線形変換について, 系統的に学び直して理解を深めてほしい。そして多くの演習問題を解くことで習熟してほしい。				
授業の進め方・方法					
注意点	受講者は第1学年・第2学年の“線形数学”(I, II)の内容を一通り学んだものとする。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ベクトルの基本事項	平面ベクトル及び空間ベクトルの基本事項を理解する。	
		2週	直線と平面	ベクトルを用いて直線及び平面について扱う。	
		3週	距離と円・球	ベクトルを用いて距離と円・球を扱う。	
		4週	行列の演算	行列の演算を理解する。	
		5週	行列式の定義と性質	行列式の定義と性質を理解する。	
		6週	余因子行列と逆行列	余因子行列及び逆行列を理解する。	
		7週	連立1次方程式の掃き出し法による解法	連立1次方程式の掃き出し法による解法を理解する。	
		8週	行列に関する方程式の掃き出し法による解法	行列に関する方程式の掃き出し法による解法を理解する。	
	2ndQ	9週	ベクトル空間	計量ベクトル空間について理解する。	
		10週	線形写像と行列	線形写像と行列について理解する。	
		11週	座標平面・座標空間における線形変換	座標平面及び座標空間における線形変換について理解する。	
		12週	線形変換と行列	線形変換と行列との関係について理解する。	
		13週	行列の固有値と固有ベクトル	正方行列の固有値と固有ベクトルについて理解する。	
		14週	行列の対角化と行列の冪	正方行列の対角化と冪について理解する。	
		15週	2次形式	2次形式について理解する。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	中間試験	定期試験	課題	合計	
総合評価割合	35	55	10	100	
基礎的能力	35	55	10	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学 I
科目基礎情報					
科目番号	04108	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない/伊勢田哲治『哲学思考トレーニング』（ちくま新書）ISBN：9 7 8 - 4 - 4 8 0 - 0 6 2 4 5 - 1				
担当教員	北野 孝志				
到達目標					
<p>(ア)「哲学的思考」とは何かについて理解し、説明できる。 (イ)議論を再構成し、明確化することができる。 (ウ)哲学者の思想に触れ、そこでの議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。 (エ)哲学的思考を活用して論理的に考える方法を理解できる。 (オ)様々な価値観を理解し、それぞれの価値問題について合意形成するプロセスを理解できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	哲学者の思想に触れ、そこでの議論を概念的に分析しつつ理解し、主体的に考察することができる。	哲学者の思想に触れながら、そこでの議論を理解し、説明することができる。	哲学者の思想に触れながら、そこでの議論を理解し、説明することができない。		
評価項目(イ)	クリティカル・シンキングを実践して、議論を再構成し、実際の問題を批判的・論理的に判断することができる。	クリティカル・シンキングを実践して、議論を再構成することができる。	クリティカル・シンキングを実践して、議論を再構成することができない。		
評価項目(ウ)	哲学的思考を活用して、現代社会の問題を主体的に考え、自分の考えを論理的に表現することができる。	哲学的思考を活用して、自分の考えを表現することができる。	哲学的思考を活用して、自分の考えを表現することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	科学技術が飛躍的に進歩し、複雑化した現代の社会においては、物事を批判的に検討し、問題を的確に分析して判断する能力が要求される。この授業では、哲学的思考を活用して実際の問題を批判的・論理的に考え判断することができるように、クリティカル・シンキングの手法を学ぶ。また、いくつかの事例を通して、現代社会の諸問題を主体的に考え、クリティカル・シンキングを実践しつつ、自分の考えを論理的に表現することができるようになることを目指す。				
授業の進め方・方法					
注意点	あらかじめ資料が提示された場合には、授業前に読んでおくこと。また、継続的に授業内容の復習を行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	授業へのイントロダクション：「哲学的思考」とは何か	(ア)「哲学的思考」とは何かについて理解し、説明できる。	
		2週	主張と議論：議論とは何か	(イ)議論を再構成し、明確化することができる。	
		3週	主張と議論：議論の流れ（接続と指示）	(イ)議論を再構成し、明確化することができる。	
		4週	主張と議論：議論の再構成	(イ)議論を再構成し、明確化することができる。	
		5週	科学的思考：「科学的事実」の信頼性	科学的思考との比較の中で、「哲学的思考」とは何かについて理解し、説明できる。	
		6週	科学的思考：反証可能性	科学的思考との比較の中で、「哲学的思考」とは何かについて理解し、説明できる。	
		7週	科学的思考：日常生活における科学的思考法の実践	科学的思考との比較の中で、「哲学的思考」とは何かについて理解し、説明できる。	
		8週	哲学的懐疑主義と文脈主義：デカルトの方法的懐疑	(ウ)哲学者の思想に触れ、そこでの議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
	2ndQ	9週	哲学的懐疑主義と文脈主義：論証の形式（根拠と結論）と論理的推論	(エ)哲学的思考を活用して論理的に考える方法を理解できる。	
		10週	哲学的懐疑主義と文脈主義：文脈主義の考え方	(エ)哲学的思考を活用して論理的に考える方法を理解できる。	
		11週	価値主張のクリティカル・シンキング：価値主張と倫理的懐疑主義	(オ)様々な価値観を理解し、それぞれの価値問題について合意形成するプロセスを理解できる。	
		12週	価値主張のクリティカル・シンキング：「生きる意味」の哲学的分析	(オ)様々な価値観を理解し、それぞれの価値問題について合意形成するプロセスを理解できる。	
		13週	不確実性と合意形成：不確実な状況における推論の問題	(オ)様々な価値観を理解し、それぞれの価値問題について合意形成するプロセスを理解できる。	
		14週	不確実性と合意形成：立場の違いに起因する問題、クリティカル・シンキングの倫理性	(オ)様々な価値観を理解し、それぞれの価値問題について合意形成するプロセスを理解できる。	
		15週	授業のまとめ	哲学的思考を活用して、自分の考えを論理的に表現することができる	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	課題	合計		

総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史特論 I
科目基礎情報					
科目番号	04109	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	なし / 2年、3年の歴史 I、II で用いた教科書、タペストリーを参照することが望ましい				
担当教員	早坂 泰行				
到達目標					
(ア)「冷戦」時代の特徴について理解できる。 (イ)「冷戦」時代の日本の位置づけについて理解できる。 (ウ)核兵器が人類の歴史に与えた影響を理解できる。 (エ)「冷戦」時代と現代社会の関係について理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	「冷戦」時代の特徴について理解し、説明できる。	「冷戦」時代の特徴について理解できる。	「冷戦」時代の特徴について理解できない。		
評価項目(イ)	「冷戦」時代の日本の位置づけについて理解し、説明できる。	「冷戦」時代の日本の位置づけについて理解できる。	「冷戦」時代の日本の位置づけについて理解できない。		
評価項目(ウ)	核兵器が人類の歴史に与えた影響を理解し、説明できる。	核兵器が人類の歴史に与えた影響を理解できる。	核兵器が人類の歴史に与えた影響を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	第二次世界大戦の終結後、核戦争の恐怖の下に、米ソ二大国が世界を支配する「冷戦」の時代が始まった。だが1989年にベルリンの壁が崩れ、冷戦体制は終えんを迎え、ソ連も崩壊した。その後アメリカ一極体制に移るかに見えたが、中国など新興国の台頭により、混迷の時代を迎えつつある。_x000D_ 本科目では、現代の国際情勢を理解するため、改めて「冷戦」の時代について講義を行う。				
授業の進め方・方法					
注意点	授業内容の理解のため、予習、復習を欠かさないこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	オリエンテーション 「冷戦」の時代について	「冷戦」の時代の概要について理解できる。	
		2週	社会主義国家ソ連の成立と勢力拡大	社会主義国家ソ連の成立と勢力拡大について理解できる。	
		3週	第二次世界大戦	第二次世界大戦と米ソ関係について理解できる。	
		4週	戦後処理と「冷戦」の始まり	第二次世界大戦の戦後処理と「冷戦」の始まりについて理解できる。	
		5週	戦後処理と「冷戦」の始まり	第二次世界大戦の戦後処理と「冷戦」の始まりについて理解できる。	
		6週	アジア諸国の独立	第二次世界大戦後の植民地の独立について理解できる。	
		7週	「雪どけ」の時代と第三勢力の形成	「雪どけ」の時代と第三勢力の形成について理解できる。	
		8週	「雪どけ」の時代と第三勢力の形成	「雪どけ」の時代と第三勢力の形成について理解できる。	
	2ndQ	9週	日本の復興	「冷戦」体制下における日本の政治と社会について理解できる。	
		10週	日本の復興	「冷戦」体制下における日本の政治と社会について理解できる。	
		11週	「冷戦」体制下の紛争	「冷戦」体制下でおきた紛争について理解できる。	
		12週	「冷戦」体制下の紛争	「冷戦」体制下でおきた紛争について理解できる。	
		13週	「デタント（緊張緩和）」の時代	「デタント（緊張緩和）」の時代が到来した原因とその影響について理解できる。	
		14週	社会主義体制の動揺と崩壊	社会主義体制の動揺と崩壊についてその原因を理解できる。	
		15週	前期のまとめ	冷戦体制の構造を俯瞰的に理解することができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	課題	合計		
総合評価割合	70	30	100		
基礎的能力	70	30	100		

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学 I
科目基礎情報					
科目番号	04111		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	テキストは特に指定しない。/テーマに応じて資料を配布する。				
担当教員	加藤 健				
到達目標					
(ア)社会政策・社会保障・社会福祉の基本的な仕組みを理解することができる。 (イ)社会政策・社会保障・社会福祉に関する発想やその意義を歴史的に考察することができる。 (ウ)現在の社会政策・社会保障・社会福祉の問題点を指摘することができる。 (エ)今後の社会政策・社会保障・社会福祉の在り方に対して自分の意見を構築することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	社会政策・社会保障・社会福祉の基本的な仕組みを理解し、他者に説明することができる。	社会政策・社会保障・社会福祉の基本的な仕組みを理解することができる。	社会政策・社会保障・社会福祉の基本的な仕組みを理解することができない。		
評価項目(イ)	社会政策・社会保障・社会福祉に関する発想やその意義を歴史的に考察し、現代的な問題と関連付けて検討することができる。	社会政策・社会保障・社会福祉に関する発想やその意義を歴史的に考察することができる。	社会政策・社会保障・社会福祉に関する発想やその意義を歴史的に考察することができない。		
評価項目(ウ)	現在の社会政策・社会保障・社会福祉の問題点を適切に指摘することができる。	現在の社会政策・社会保障・社会福祉の問題点を指摘することができる。	現在の社会政策・社会保障・社会福祉の問題点を指摘することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	人間は、生きていく上で常に健康で順調であるとは限らない。例えば、疾病、ケガ、障がい、失業、老齢といった様々な危機に直面する可能性がある。このような状況を個人や家族のみで解消することができない場合、どのような社会的な政策や制度を設計する必要があるだろうか。本講義では、時事問題を適宜取り上げながら、社会政策、社会保障、社会福祉に関する基礎的・基本的な事柄について検討していく。「経済学I」(前学期)では、雇用・労働問題、医療、年金、介護について取り上げる。				
授業の進め方・方法					
注意点	毎回の講義で取り上げるトピックについて、講義時間外にも積極的に考えたり調べたりすることが望ましい。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション：社会政策、社会保障、社会福祉	社会政策、社会保障、社会福祉の基本的な枠組みが理解できる。	
		2週	福祉国家における生存権と労働	生存権について理解できる。	
		3週	社会政策の歴史(1)：イギリス	イギリスの社会政策の歴史について理解できる。	
		4週	社会政策の歴史(2)：日本、ドイツ、アメリカ	日本、ドイツ、アメリカの社会政策の歴史について理解できる。	
		5週	保険のしくみ：民間保険と社会保険	民間保険と社会保険の相違について理解できる。	
		6週	雇用・労働問題(1)：労働政策、労使関係、賃金	雇用・労働問題の基本的な枠組みについて理解できる。	
		7週	雇用・労働問題(2)：雇用保険	雇用保険について理解できる。	
		8週	雇用・労働問題(3)：労働災害	労働災害について理解できる。	
	2ndQ	9週	医療の現状と課題(1)：医療保険の必要性、健康保険、国民健康保険	医療保険の基本的な枠組みについて理解できる。	
		10週	医療の現状と課題(2)：後期高齢者医療制度、医療保険制度の動向と課題	後期高齢者医療保険について理解できる。	
		11週	年金の現状と課題(1)：国民年金、厚生年金	年金制度の基本的な枠組みについて理解できる。	
		12週	年金の現状と課題(2)：年金保険制度の動向と課題	年金保険制度の現状と課題について理解できる。	
		13週	介護の現状と課題(1)：介護保険制度の創設と概要	介護保険制度の基本的な枠組みについて理解できる。	
		14週	介護の現状と課題(2)：介護保険制度をめぐる動向	介護保険の現状と課題について理解できる。	
		15週	理解度の確認		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学 I
科目基礎情報					
科目番号	04112		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	4	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	なし。適宜、レジュメ等の資料を配布する。 / 【参考図書】安念潤司, 小山剛, 青井未帆, 穴戸常寿, 山本龍彦 『論点日本国憲法 〔第二版〕』 (東京法令出版), x000B 2014年				
担当教員	伊藤 潤				
到達目標					
(ア)日本国憲法に関する基本的知識を有し、自ら説明することができる。 (イ)民主主義と人権に関する基礎的知識を有し、自ら説明することができる。 (ウ)日本の政治制度に関する基礎的知識を有し、自ら説明することができる。 (エ)日本の司法制度に関する基礎的知識を有し、自ら説明することができる。 (オ)政治・法律に関連する時事問題を理解し、自らの意見を持つことができる。					
ルーブリック					
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(可)		最低限の到達レベルの目安(不可)
評価項目(ア)	日本国憲法に関する基礎的知識を有し、自ら説明することができる。		日本国憲法に関する基礎的知識を習得している。		日本国憲法に関する基礎的知識を習得できていない。
評価項目(イ)	民主主義と人権に関する基礎的知識を有し、自ら説明することができる。		民主主義と人権に関する基礎的知識を習得している。		民主主義と人権に関する基礎的知識を習得できていない。
評価項目(ウ)	日本の政治制度に関する基礎的知識を有し、自ら説明することができる。		日本の政治制度に関する基礎的知識を習得している。		日本の政治制度に関する基礎的知識を習得できていない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	政治や法律に関するニュースは毎日メディアを通じて報道されている。その中で溢れる多くの情報を整理して読み解くためには、個々の出来事に関する知識だけでなく、今日の日本政治の枠組み、そしてその背景にある憲法との関係について理解しておくことが不可欠である。そこで、本講義では、日本国憲法を中心に日本の政治制度・法制度の基礎について学び、時事的な問題を主体的に分析・思考する力を身につけることを目指す。				
授業の進め方・方法					
注意点	授業内容の復習に加え、毎日ニュースをチェックして時事的な政治・法律問題に関心を持つよう心がけてください。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション：憲法と政治の関係	憲法および政治の基本的な関係について理解することができる。	
		2週	日本国憲法の生い立ち	日本国憲法制定の背景とその過程について理解することができる。	
		3週	国民主権と天皇制	国民主権と天皇制の特徴について理解することができる。	
		4週	基本的人権	基本的人権の特徴について理解することができる。	
		5週	日本の政治制度：その特徴と国際比較	三権分立を把握し、日本および諸外国の政治制度の基本的特徴を理解することができる。	
		6週	日本の立法システム：国会の仕組みと役割	国会の制度的特徴と立法プロセスを把握し、時事的問題を理解することができる。	
		7週	日本の行政システム：内閣と行政機構	内閣および行政機構の制度的特徴を把握し、時事的問題を理解することができる。	
		8週	日本の司法システム：裁判所の仕組みと役割	司法制度の特徴を把握し、時事的問題を理解することができる。	
	2ndQ	9週	選挙制度	選挙制度の特徴を把握し、時事的問題を理解することができる。	
		10週	地方自治	地方自治制度の特徴を把握し、時事的問題を理解することができる。	
		11週	日本の安全保障：平和主義と自衛権	日本の安全保障に関する制度と政策の特徴を把握し、時事的問題を理解することができる。	
		12週	日本の外交政策と条約	日本の外交に関する制度と政策の特徴を把握し、時事的問題を理解することができる。	
		13週	災害対策・危機管理	災害対策・危機管理に関する制度と政策の特徴を把握し、時事的問題を理解することができる。	
		14週	憲法改正：その手続と最近の動向	憲法改正の仕組みを把握し、時事的問題を理解することができる。	
		15週	総括	憲法と政治に関する時事的問題を体系的に読み解き、総合的に理解することができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	レポート	課題	合計	

総合評価割合	70	20	10	100
基礎的能力	70	20	10	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	科学英語基礎ⅡA
科目基礎情報					
科目番号	04125	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	前期	週時間数	2		
教科書/教材	「Science Updates」 Hiroto Nagata 他著 (成美堂) (ISBN978-4-7919-4783-6 C1082)/プリント教材				
担当教員	神谷 昌明, 藤村 すみゑ				
到達目標					
(ア) 科学論説文の読解に必要な語彙を習得する。 (イ) 基礎文法 (接続詞、比較、同格等) を習得し、運用できる。 (ウ) 科学論説文で使用される基礎単語を聞き取ることができる。 (エ) 科学論説文を読んで、概要や要点を把握することができる。 (オ) 科学論説文を読んで、目的に応じて必要な情報を捉えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	科学論説文の読解に必要な語彙を習得する。	科学論説文の読解に必要な語彙が理解できる。	科学論説文の読解に必要な語彙が理解できない		
評価項目(イ)	基礎文法 (接続詞、比較、同格等) を習得し、運用できる。	基礎文法 (接続詞、比較、同格等) が理解できる。	基礎文法 (接続詞、比較、同格等) が理解できない。		
評価項目(ウ)	科学論説文で使用される基礎単語を聞き取ることができる。	科学論説文で使用される基礎単語を (何回も聞けば) 聞き取ることができる。	科学論説文で使用される基礎単語を聞き取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	3年次の「科学英語基礎ⅠAB」で習得した科学・技術分野で使用される語彙、語法・文法の知識を基礎とし、さらに発展的な科学論説文を題材に、その英文読解の訓練を行う。教科書で扱っているトピックは多岐にわたり、科学論説文ゆえ、分析と観察に基づく明快な結論が提示されている。読解に加えて、文法の復習と確認、英作文の練習を行い、文法力の伸長を図りたい。また、科学論説文の読解に必要な語彙の定着のための語彙学習も行う。				
授業の進め方・方法					
注意点					
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス、進化の謎についての英文読解	進化の謎についての英文が理解できる。	
		2週	進化の謎についての英文読解	進化の謎についての英文が理解できる。	
		3週	単為生殖についての英文読解	単為生殖についての英文が理解できる。	
		4週	単為生殖についての英文読解	単為生殖についての英文が理解できる。	
		5週	深海の不思議な生きものについての英文読解	深海の不思議な生き物についての英文が理解できる。	
		6週	深海の不思議な生きものについての英文読解	深海の不思議な生き物についての英文が理解できる。	
		7週	山体崩壊についての英文読解	山体崩壊についての英文が理解できる。	
		8週	山体崩壊についての英文読解	山体崩壊についての英文が理解できる。	
	2ndQ	9週	深い森の地下抗争についての英文読解	深い森の地下抗争についての英文が理解できる。	
		10週	異常気象についての英文読解	異常気象についての英文が理解できる。	
		11週	オオカミ少女についての英文読解	オオカミ少女についての英文が理解できる。	
		12週	ネッシーについての英文読解	ネッシーについての英文が理解できる。	
		13週	ミステリーサークルについての英文読解	ミステリーサークルについての英文が理解できる。	
		14週	気になる木の根冠についての英文読解	気になる木の根冠についての英文が理解できる。	
		15週	前期の (総) まとめ	科学英語に出てくる基本的な専門語彙・語法が理解できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	中間試験	定期試験	課題	合計	
総合評価割合	30	50	20	100	
基礎的能力	30	50	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	保健体育IVB
科目基礎情報					
科目番号	04202	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実技	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	「ACTIVE SPORTS」(大修館書店) 「運動と健康の科学」(鈴木製本所) / プリント ビデオ教材				
担当教員	鈴木 康平				
到達目標					
<p>(ア) 競技規則を理解し厳守する事でフェアで安全にゲームを実施することができる。</p> <p>(イ) 審判、線審、得点係など役割分担をし、自主的にゲーム運営ができる。</p> <p>(ウ) ダブルスゲームにおいてペアと協力してゲームができる。</p> <p>(エ) 個人技術を理解し、積極的に練習することができる。</p> <p>(オ) 相手の動きや対応して作戦を立てることができる。</p> <p>(カ) できるだけ速く長い距離を走ることができる。</p> <p>(キ) エイズについての正しい知識について説明できる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	バドミントンに必要な技術を習得し、クラス内のメンバーと協力してシングルスとダブルスの試合が実施できる。	クラス内のメンバーと協力してシングルスとダブルスの試合が実施できる。	協力してシングルスとダブルスの試合が実施できない。		
	長距離走で決められた距離をできるだけ早く走ることができる。	長距離走で決められた距離を走ることができる。	長距離走で決められた距離を走ることができない。		
	エイズとその予防策を理解し、自分の考えを述べることができる。	エイズとその予防策を理解することができる。	エイズとその予防策を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	バドミントンを通じてラケットスポーツの競技特性とゲーム構造を理解する。バドミントンで用いられる道具の操作方法と様々な技術を積極的に習得し、戦略を考慮しながらゲームを組み立てる。また、競技規則を十分に理解し、互いの安全を確保しながら、生涯スポーツを意識して自主的にゲーム運営ができるよう学ぶ。また、持久力の保持増進のために長距離を最大限に努力して走ることができるようにする。保健講義では、エイズとその予防についての講義を通じて、エイズに対する正しい認識を身につける。				
授業の進め方・方法					
注意点	ジャージを着用し、体育館シューズを使用する。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ラケットの操作 (グリップと基本的な操作方法、ラケット遊び)	ラケットの操作方法を習得するための練習をする。	
		2週	サービス (ロングサービス、ショートサービス)	サービス技術を習得するための練習をする。	
		3週	ストローク (フォアとバックストローク、フットワーク)	基本的なストローク技術を習得するための練習をする。	
		4週	ラケットワークとフライト (クリアー、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン)	応用的なストローク技術を理解する。	
		5週	ラケットワークとフライト (クリアー、ドライブ、ドロップ、スマッシュ、ヘアピン)	応用的なストローク技術を習得するための練習をする。	
		6週	フォーメーション (トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイヤゴアル)	試合に必要なフォーメーションを理解する。	
		7週	フォーメーション (トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイヤゴアル)	試合に必要なフォーメーションを習得するための練習をする。	
		8週	バドミントンの歴史とルール、審判法	バドミントンの歴史とルール、審判法を理解する。	
	4thQ	9週	ダブルスゲーム	ダブルスゲームを通してゲーム進行を理解する。	
		10週	ダブルスゲーム	ダブルスゲームの中で、これまで練習した技術を実践する。	
		11週	シングルスゲーム	シングルスゲームを通してゲーム進行を理解する。	
		12週	シングルスゲーム	シングルスゲームの中で、これまで練習した技術を実践する。	
		13週	長距離走 (男子5000m、女子3000mのタイムトライアル)	決められた距離を走ることができる。	
		14週	エイズとその予防 (免疫のしくみ、感染ルート、患者・感染者との共生)	エイズとその予防法を理解することができる。	
		15週	エイズとその予防 (免疫のしくみ、感染ルート、患者・感染者との共生)	エイズとその予防法について自らの考えを述べることができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	耐寒マラソン	実技課題	保健	合計	
総合評価割合	20	60	20	100	
基礎的能力	20	60	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	英語 I B	
科目基礎情報						
科目番号	04203	科目区分	一般 / 選択			
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1			
開設学科	一般教育	対象学年	4			
開設期	後期	週時間数	1			
教科書/教材	「Reading Success 2」 佐藤明彦 (他) 著 (成美堂) 「実戦演習・基礎英文法」 丸山喬編著 (桐原書店) / 「めざせ100万語読書記録手帳」 (コスモピア)、多読用英語図書 (図書館所蔵)					
担当教員	長岡 美晴,石川 純子,出嶋 真由美					
到達目標						
(ア)高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。 (イ)英文を読んで、目的に応じて必要な情報を捉えることができる。 (ウ)英文を読んで、概要や要点を把握することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安			
評価項目(ア)	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得し、運用できる。	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得している。	高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得していない。			
評価項目(イ)	英文を読んで、目的に応じて必要な情報を正しく捉えることができる。	英文を読んで、目的に応じて必要な情報を捉えることができる。	英文を読んで、目的に応じて必要な情報を捉えることができない。			
評価項目(ウ)	英文を読んで、概要や要点を正確に把握することができる。	英文を読んで、概要や要点を把握することができる。	英文を読んで、概要や要点を把握することができない。			
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	「英語IA」で学習したことを基に、さらに高度な英語のリーディング・スキルを身につけることを目指し、教科書を使って既習の文法事項を復習しつつ主に速読と多読を中心とした英語の読み方の訓練を行う。使用する教科書で扱う英文は、日本人読者に馴染みのある話題の新聞・雑誌記事等である。また、英文読解に必要な基礎語彙の定着のための語彙学習も行う。					
授業の進め方・方法						
注意点	必ず予習をして授業に臨むこと。図書館の英文多読教材を大いに活用すること。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
授業計画						
	週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	1週	トピック：エジプトのピラミッド オリエンテーション		トピックの英文について読解ができる。		
	2週	トピック：エジプトのピラミッド 読解・語彙演習	文法：比較	トピックの英文について読解ができる。比較の演習問題が解ける。		
	3週	トピック：愛を語る日 読解・語彙演習	文法：仮定法I	トピックの英文について読解ができる。仮定法の演習問題が解ける。		
	4週	トピック：愛を語る日 読解・語彙演習	文法：仮定法II	トピックの英文について読解ができる。仮定法の演習問題が解ける。		
	5週	トピック：ユニークな職業 読解・語彙演習	文法：語法	トピックの英文について読解ができる。語法の演習問題が解ける。		
	6週	トピック：ユニークな職業 読解・語彙演習	文法：否定	トピックの英文について読解ができる。否定の演習問題が解ける。		
	7週	トピック：メデューサの神話 読解・語彙演習	文法：特殊構文	トピックの英文について読解ができる。特殊構文の演習問題が解ける。		
	8週	トピック：メデューサの神話 読解・語彙演習 生物主語	文法：名詞構文・無	トピックの英文について読解ができる。名詞構文・無生物主語の演習問題が解ける。		
	4thQ	9週	トピック：遺伝子組み換え 読解・語彙演習	文法：名詞・冠詞	トピックの英文について読解ができる。名詞・冠詞の演習問題が解ける。	
		10週	トピック：遺伝子組み換え 読解・語彙演習	文法：代名詞	トピックの英文について読解ができる。代名詞の演習問題が解ける。	
		11週	トピック：地球の日 読解・語彙演習	文法：形容詞・副詞	トピックの英文について読解ができる。形容詞・副詞の演習問題が解ける。	
		12週	トピック：地球の日 読解・語彙演習	文法：前置詞	トピックの英文について読解ができる。前置詞の演習問題が解ける。	
		13週	トピック：技術と生活 読解・語彙演習	文法：接続詞	トピックの英文について読解ができる。接続詞の演習問題が解ける。	
		14週	トピック：技術と生活 文法：実力問題		トピックの英文について読解ができる。文法の実力問題が解ける。	
		15週	後学期のまとめ		後学期の内容が理解できる。	
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
評価割合						
	中間試験	定期試験	課題	合計		

総合評価割合	30	50	20	100
基礎的能力	30	50	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	物理特論B
科目基礎情報					
科目番号	04204	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	/ 「理工系基礎 物理学」 吉岡達士著 (開成出版), 「高専の物理」小暮陽三編集 (森北出版), _x000D_「電磁気学I, II」 長岡 洋介 著 (岩波書店)				
担当教員	小山 博子				
到達目標					
<p>(ア) 複数の電荷によるクーロン力を求めることができる。</p> <p>(イ) 対称性の良い分布をしている電荷による電場を, ガウスの法則から求めることができる。</p> <p>(ウ) 電場から, 電位や電位差を求めることができる。</p> <p>(エ) コンデンサの電気容量や静電エネルギー, 合成容量を求めることができる。</p> <p>(オ) 電場中にある導体・絶縁体 (誘電体) の電荷分布を説明できる。</p> <p>(カ) 定常電流周辺の磁場を, アンペールの法則やビオ・サバールの法則から求めることができる。</p> <p>(キ) ローレンツ力から, 定常電流が流れる導線間に働く力や, 磁場中の電荷の運動を調べることができる。</p> <p>(ク) 閉回路を貫く磁束の変化から, 閉回路に流れる電流変化を調べることができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	複数の電荷によるクーロン力に関する応用問題を解くことができる。	複数の電荷によるクーロン力に関する基礎問題を解くことができる。	複数の電荷によるクーロン力に関する基礎問題を解くことができない。		
評価項目(イ)	ガウスの法則を用い電場に関する応用問題を解くことができる。	ガウスの法則を用い電場に関する基礎問題を解くことができる。	ガウスの法則を用い電場に関する基礎問題を解くことができない。		
評価項目(ウ)	電場から, 電位や電位差に関する応用問題を解くことができる。	電場から, 電位や電位差に関する基礎問題を解くことができる。	電場から, 電位や電位差に関する基礎問題を解くことができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本講義では, 物理学の基礎となる電磁気学を学ぶ。まず始めに, 静止した電荷間に働く力を理解し, その力が形成する場 (電場) の概念を紹介する。また, 任意の電荷分布による電場を調べるための, ガウスの法則を紹介する。さらに仕事の概念を用いて, 電荷の作る電位について学ぶ。また, 定常電流により発生する磁場の求め方, 磁場中の電荷の運動についてもふれる。				
授業の進め方・方法					
注意点	M科・E科・I科では, 専門科目において, 本講義内容と同等な科目が開講されており, 本講義を取る必要はない。 _x000D_C科・A科については, 大学によっては編入試験に電磁気学の内容を含むことがあり, この機会に学んで欲しい。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	クーロンの法則 : 電荷, クーロンの法則, 複数の電荷から働く力	電荷, クーロンの法則, 複数の電荷から働く力を説明できる。	
		2週	クーロンの法則 : 電荷, クーロンの法則, 複数の電荷から働く力	電荷, クーロンの法則, 複数の電荷から働く力の問題を解くことができる。	
		3週	電場, ガウスの法則 : 電場とクーロン力, 電気力線	電場とクーロン力を説明できる。	
		4週	電場, ガウスの法則 : 電場とクーロン力, 電気力線	電気力線, ガウスの法則を説明できる。	
		5週	電場, ガウスの法則 : 電場とクーロン力, 電気力線	電場とクーロン力, 電気力線, ガウスの法則の問題を解くことができる。	
		6週	電位, 双極子モーメント : 仕事, 電位と電場, 等電位面	仕事, 電位と電場, 等電位面, 双極子モーメントを説明できる。	
		7週	電位, 双極子モーメント : 仕事, 電位と電場, 等電位面	仕事, 電位と電場, 等電位面, 双極子モーメントの問題を解くことができる。	
		8週	コンデンサ量 : 電気容量, 静電エネルギー, 合成容量	電気容量, 静電エネルギー, 合成容量を説明できる。	
	4thQ	9週	コンデンサ量 : 電気容量, 静電エネルギー, 合成容量	電気容量, 静電エネルギー, 合成容量の問題を解くことができる。	
		10週	媒質と電場, コンデンサと誘電体 : 導体と絶縁体, 静電誘導, 誘電分極	導体と絶縁体, 静電誘導, 誘電分極, コンデンサと誘電体を説明できる。	
		11週	媒質と電場, コンデンサと誘電体 : 導体と絶縁体, 静電誘導, 誘電分極	導体と絶縁体, 静電誘導, 誘電分極, コンデンサと誘電体の問題を解くことができる。	
		12週	磁場 : 定常電流と磁場, アンペールの法則, ビオ・サバールの法則	定常電流と磁場, アンペールの法則, ビオ・サバールの法則を説明できる。	
		13週	磁場 : 定常電流と磁場, アンペールの法則, ビオ・サバールの法則	定常電流と磁場, アンペールの法則, ビオ・サバールの法則の問題を解くことができる。	
		14週	ローレンツ力 : 磁場中の電荷の運動, ローレンツ力	磁場中の電荷の運動, ローレンツ力を解くことができ, 問題を解くことができる。	
		15週	電磁誘導, 誘導起電力 : 電磁誘導の法則, レンツの法則	電磁誘導の法則, レンツの法則, 誘導起電力を説明でき, 問題を解くことができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

評価割合				
	中間試験	定期試験	課題	合計
総合評価割合	30	50	20	100
基礎的能力	30	50	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	化学特論B
科目基礎情報					
科目番号	04205	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	なし/必要に応じプリントを配布する				
担当教員	三浦 大和				
到達目標					
(ア)18電子則を用いて錯体の構造を説明できる。 (イ)混成軌道について具体例をあげ形状を説明できる。 (ウ)金属イオンの性質(反応性・色調・沈殿形成条件)が理解でき、系統分離が説明できる。 (エ)気体の発生と性質が理解できる。 (オ)溶液の酸性度が計算できる。 (カ)反応速度解析から諸量が算出できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	金属錯体間の安定度を含め、18電子則を用いて構造を説明できる。	18電子則を用いて錯体の構造を説明できる。	18電子則を用いた錯体の構造説明ができない。		
評価項目(イ)	軌道の概念図やその形状図双方を明示し説明できる。	混成軌道について具体例をあげ形状を説明できる。	混成軌道についての説明すらできない。		
評価項目(ウ)	金属イオンの性質(反応性・色調・沈殿形成条件)が理解でき、系統分離を順次添加する化合物を含め説明できる。	金属イオンの性質(反応性・色調・沈殿形成条件)が理解でき、系統分離が説明できる。	金属イオンの性質を理解できておらず、系統分離による沈殿化学種すら表記できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	化学I-化学IIIで学習した化学基礎事項に加え、無機化学の領域に関する講義を中心に行う。講義の主な分野は、周期表の典型元素群(1族-3族・13族-17族)ならびに遷移金属元素(3d元素)である。特に1年生で学習した原子モデル(エネルギー準位モデル)は基本となるので復習しておくことを望みます。また、現代化学工業プロセスについても講義を行うので、日常生活で使用している化学商品(化成品)について学習し、編入試験レベルの問題を解けるようになることを目的とします。				
授業の進め方・方法	講義形式で行うが、適宜化学図録を参照に用いながら必要な資料はプリント配布を行う。				
注意点	編入試験レベルの問題解法を目的とする。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	授業の概要説明および周期律と原子モデル	原子の電子軌道、電子配置を表記し周期律を理解する。	
		2週	典型元素(金属・非金属元素)	族ごとに性質や特徴を理解し、化合物の名称や典型的な化学反応を表記できる。	
		3週	遷移金属元素	遷移金属元素の性質や特徴を理解し、典型的な化学反応を表記できる。	
		4週	錯体の命名および性質	金属錯体の名称やその性質を理解し、18電子則を用いて安定性を説明できる。	
		5週	分光化学系列と錯体の反応	金属錯体の配位子置換反応を分光化学系列を用いて説明できる。	
		6週	演習	上記の範囲の演習をを中心に行い、補足説明する。	
		7週	反応速度と平衡定数	質量作用の法則を用いて平衡定数を求められ、速度因子が理解できる。	
		8週	複雑な反応	二次・三次といった反応速度理論が理解でき、グラフの概形を表記できる。	
	4thQ	9週	反応速度解析	アレニウスプロットを用いて反応速度解析を行うことができる。	
		10週	溶液の解離平衡と酸性度	酸塩基の解離平衡の現象が理解でき、酸性度の産出ができる。	
		11週	緩衝溶液と酸性度・イオン積	緩衝溶液の酸性度算出が理解でき、その性質が表記できる。また、難溶性塩の諸量をイオン積より算出できる。	
		12週	演習	上記の範囲の演習をを中心に行い、補足説明する。	
		13週	気体の発生	主要気体の発生手法を化学反応式で表記できる。	
		14週	金属イオンの沈殿分析	金属イオンの沈殿分析手法を理解している。	
		15週	演習	上記の範囲の演習をを中心に行い、補足説明する。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
基礎的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	数学特論B
科目基礎情報					
科目番号	04206		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教育		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	「新編 高専の数学 2」(森北出版) ISBN:978-4-627-04823-2_x000D_ ISBN:978-4-627-04833-1/教材プリント			「新編 高専の数学 3」(森北出版)	
担当教員	齊藤 清美, 笠井 剛				
到達目標					
<p>(ア)数列に関する基本的な計算ができる。 (イ)関数の極限を理解して基本的な極限の計算ができる。 (ウ)微分係数及び導関数を理解して計算できて、微分法を応用できる。 (エ)定積分及び不定積分を理解して計算できて、積分法を応用できる。 (オ)媒介変数方程式及び極座標を理解して、これらを用いる計算ができる。 (カ)関数の冪級数展開を理解して、基本的な関数の冪級数に関する問題を解ける。 (キ)簡単な1階の微分方程式及び2階の定数係数線形微分方程式を解ける。 (ク)偏導関数を理解して計算できて、偏微分法を応用できる。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベル(優)の目安		標準的な到達レベル(良)の目安		未到達レベル(不可)の目安
評価項目1	1変数関数の微分法及びその応用に関する発展的な問題を解ける。		1変数関数の微分法及びその応用に関する基本的な問題を解ける。		1変数関数の微分法及びその応用に関する問題を解けない。
評価項目2	1変数関数の積分法及びその応用に関する発展的な問題を解ける。		1変数関数の積分法及びその応用に関する基本的な問題を解ける。		1変数関数の積分法及びその応用に関する問題を解けない。
評価項目3	2変数関数の微分法・積分法及びその応用に関する発展的な問題を解ける。		2変数関数の微分法・積分法及びその応用に関する基本的な問題を解ける。		2変数関数の微分法・積分法及びその応用に関する問題を解けない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本科目では2, 3年生の基礎解析の科目で学んだ1変数関数の微分積分と微分方程式の内容と、4年生で学ぶ2変数関数の微分積分の内容とについて、既習事項を簡単に復習して問題演習を行う。幾つかの項目では既習ではない発展的な内容も扱う。微分積分及び微分方程式について、系統的に学び直して理解を深めてほしい。そして多くの演習問題を解くことで習熟してほしい。				
授業の進め方・方法					
注意点	受講者は第1学年から第3学年までの“基礎解析”(I~IV)の内容と“微分方程式”の内容とを一通り学んだものとする。また第4学年の“解析学A”を履修したものとする。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
後期	3rdQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	数列	数列、数列の項の総和、等差数列、等比数列について理解する。	
		2週	関数の極限值	関数の極限值、数列の極限值、級数について理解する。	
		3週	微分係数と導関数	微分係数と導関数、関数の微分法について理解する。	
		4週	微分法の応用	関数の値の増減と導関数について理解する。	
		5週	定積分と不定積分	定積分及び不定積分の概念を理解する。	
		6週	積分の計算法	積分公式、置換積分法、部分積分法による積分計算を理解する。	
		7週	積分の計算法	有理式、無理式、三角関数を含む式などの積分計算を理解する。	
	8週	積分の応用	面積・体積・曲線の長さを積分で計算する方法を理解する。		
	4thQ	9週	広義積分	広義積分について理解する。	
		10週	媒介変数方程式と極座標	媒介変数方程式及び極座標について理解する。	
		11週	関数の冪級数展開	関数のマクローリン展開及びオイラーの定理について理解する。	
		12週	1階の微分方程式	変数分離形微分方程式、同次形微分方程式、1階線形微分方程式の解法を理解する。	
		13週	2階の定数係数線形微分方程式	2階の定数係数線形微分方程式の解法を理解する。	
		14週	偏微分係数と偏導関数	2変数関数の偏微分係数と偏導関数について理解する。	
		15週	偏微分法の応用	2変数関数の極値及び陰関数の微分法について理解する。	
16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	中間試験	定期試験	課題	合計	
総合評価割合	35	55	10	100	
基礎的能力	35	55	10	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語表現
科目基礎情報					
科目番号	04207		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	授業プリント (随時配布) 「精選 現代文B」 (明治書院) / 「高校漢字の総練習」 (三省堂)、「常用国語便覧」 (浜島書店) 国語辞典				
担当教員	山口 比砂, 眞野 道子				
到達目標					
(ア) 常用漢字を正しく読み書きし、故事成語・慣用句、類義語・対義語を思考や表現に活用できる。 (イ) 実用的な文章 (履歴書・手紙・メール) を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。 (ウ) 自分の専門分野に関する用語を思考や表現に活用できる。 (エ) 目的に応じて、適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に伝わる小論文を作成できる。 (オ) 作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	常用漢字を正しく読み書きし、故事成語・慣用句、類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	常用漢字、故事成語・慣用句、類義語・対義語を正しく読み書きできる。	常用漢字、故事成語・慣用句、類義語・対義語を正しく読み書きできない。		
評価項目(イ)	実用的な文章 (履歴書・手紙・メール) を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	実用的な文章 (履歴書・手紙・メール) の基本的な書き方が理解できる。	実用的な文章 (履歴書・手紙・メール) の基本的な書き方が理解できない。		
評価項目(ウ)	目的に応じて、情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に伝わる小論文を作成できる。	目的に応じて、情報収集を行い、収集した情報を分析・整理できる。	目的に応じて、情報収集を行い、収集した情報を分析・整理できない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	就活・進学・社会生活に必要な日本語コミュニケーション能力を養う。具体的には、履歴書・小論文・自己PR文など、実際に必要となる文章の書き方を学ぶ。特に、自らの考えを、読み手が理解しやすいように表現する方法の基礎を身につけることを目指す。さらに、ビジネスマナーやプレゼンテーション方法などについても取り上げる。				
授業の進め方・方法					
注意点	正しい日本語表現を心がけ、コミュニケーション能力を高めること。x000D 各講義後に必ず復習して、学習内容の理解を深めること。なお、決められた期日までの複数の課題提出を求める。x000D キャリア教育支援プログラムで開講されるビジネスマナー講座やエントリー講座などには必ず出席して、知識を深めること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス (就活・進学・社会生活に必要な日本語能力について)	就活・進学・社会生活に必要な日本語能力について理解できる。	
		2週	敬語の正しい使い方 (1)	相手や目的に応じた敬意表現を用いることができる。	
		3週	敬語の正しい使い方 (2)	相手や目的に応じた敬意表現を用いることができる。	
		4週	ビジネス文書の作成 (1)	実用的な文章を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	
		5週	ビジネス文書の作成 (2)	実用的な文章を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	
		6週	ビジネス文書の作成 (3) 漢字の実践的総合学習	実用的な文章を相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成し、常用漢字を正しく運用できる。	
		7週	分かりやすい文章の書き方・自己紹介書やエントリーシートの書き方 (1)	自分の専門分野に関する用語を思考や表現に活用し、分かりやすい文章を書くことができる。	
		8週	分かりやすい文章の書き方・自己紹介書やエントリーシートの書き方 (2)	自分の専門分野に関する用語を思考や表現に活用し、分かりやすい文章を書くことができる。	
	4thQ	9週	原稿用紙の使い方・論理的文章の要約	論理的な文章の構成や展開を理解し、要約できる。原稿用紙を正しく使用できる。	
		10週	小論文の書き方 (1)	目的に応じて、適切な情報収集を行い、分析・整理を経て小論文を作成できる。	
		11週	小論文の書き方 (2)	目的に応じて、適切な情報収集を行い、分析・整理を経て小論文を作成できる。	
		12週	小論文の書き方 (3) 故事成語・慣用句、類義語・対義語の総合学習	文章を推敲し、小論文を仕上げる事ができる。漢字の総合学習を表現に活用できる。	
		13週	プレゼンテーション能力 (1)	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	
		14週	プレゼンテーション能力 (2)	作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	
		15週	まとめ (学習内容・学習成果を振り返り、整理する)	学習内容・学習成果を振り返り、整理できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	小テスト	課題	合計	
総合評価割合	50	20	30	100	

基礎的能力	50	20	30	100
-------	----	----	----	-----

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	哲学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	04208	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない/プリント等				
担当教員	北野 孝志				
到達目標					
<p>(ア) 哲学者の思想に触れつつ、人間とは何かについて考え説明することができる。</p> <p>(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。</p> <p>(ウ) 現代において科学・技術が抱えている諸問題について主体的に考え、これらの問題にどう取り組んだらよいか自分なりの見解を述べるることができる。</p> <p>(エ) 哲学的思考を活用して自分の考えを論理的に構成し、より説得力のある文章で表現することができる。</p> <p>(オ) 様々な価値観を理解し、それぞれの問題について多面的に論じることができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、それをきっかけにして自分なりの考えを持つことができる。	各テーマにおける議論を理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	各テーマにおける議論を理解し、説明することができない。		
評価項目(イ)	資料を活用して現代社会の諸問題を探究し、その成果を論述したり討論したりすることを通して、自分の考えを論理的に構成し、より説得力のある文章で表現することができる。	資料を活用して現代社会の諸問題を探究し、その成果を論述したり討論したりすることができる。	資料を活用して現代社会の諸問題を探究し、その成果を論述したり討論したりすることができない。		
評価項目(ウ)	様々な価値観を理解し、それぞれの問題について多面的に論じつつ、哲学的思考を活用して自分なりの結論を導き出すことができる。	様々な価値観を理解し、それぞれの問題について多面的に論じることができる。	様々な価値観を理解し、それぞれの問題について多面的に論じることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	科学技術が飛躍的に進歩し、複雑化した現代において、これからの技術者には物事を多面的に捉える広い視野と、問題を的確に分析し判断する能力が要求される。この授業では、様々な思想に触れることを通して、多様な価値観を学ぶ。そして、現代社会に生きる私たちが直面している諸問題について主体的に考え、哲学的思考を活用して自分なりの結論を導き出すとともに、それについて論理的に表現する能力を身につけることを目指す。				
授業の進め方・方法					
注意点	「倫理」の授業で使用した教科書・用語集を持ってこることが望ましい。あらかじめ資料が提示された場合には、授業前に読んでおくこと。また、継続的に授業内容の復習を行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	授業へのイントロダクション	(ア) 哲学者の思想に触れつつ、人間とは何かについて考え説明することができる。	
		2週	知識とは何か—相対主義の問題	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		3週	本質はどこにあるのか—理想主義と現実主義	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		4週	知るとはということか—経験論と合理論	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		5週	私とは何か—「われ思う、ゆえにわれあり」	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		6週	身体は物体と同じか—人体機械論	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		7週	自然とは何か—伝統的自然観と機械論的自然観	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		8週	環境問題とは—人間中心主義と環境倫理	(ウ) 現代において科学・技術が抱えている諸問題について主体的に考え、これらの問題にどう取り組んだらよいか自分なりの見解を述べるることができる。	
	4thQ	9週	キリスト教の生命観と仏教の生命観	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		10週	われわれの死生観—安楽死と尊厳死	(ウ) 現代において科学・技術が抱えている諸問題について主体的に考え、これらの問題にどう取り組んだらよいか自分なりの見解を述べるることができる。	
		11週	人間の本性とは—性善説と性悪説	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		12週	人は運命に逆らえるか—運命と自由	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		13週	自由とは—自律と共同性	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		14週	私たちはともに自由に生きられるのか—個人と社会	(イ) 各テーマにおける議論を概念的に分析しつつ理解し、的確な表現を用いて説明することができる。	
		15週	授業のまとめ	(エ) 哲学的思考を活用して自分の考えを論理的に構成し、より説得力のある文章で表現することができる。	

		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
		定期試験	課題	合計
総合評価割合		50	50	100
基礎的能力		50	50	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	歴史特論Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	04209		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	なし / 2年、3年の歴史Ⅰ、Ⅱで用いた教科書、タペストリーを参照することが望ましい				
担当教員	京極 俊明				
到達目標					
(ア)19世紀から20世紀初頭のヨーロッパの歴史について理解できる。 (イ)産業革命と工業化による社会の変化について理解できる。 (ウ)帝国主義が世界に及ぼした影響について理解できる。 (エ)第一次世界大戦と総力戦について理解できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	19世紀から20世紀初頭のヨーロッパの歴史について理解し、説明できる。		19世紀から20世紀初頭のヨーロッパの歴史について理解できる。		19世紀から20世紀初頭のヨーロッパの歴史について理解できない。
評価項目(イ)	産業革命と工業化による社会の変化について理解し、説明できる。		産業革命と工業化による社会の変化について理解できる。		産業革命と工業化による社会の変化について理解できない。
評価項目(ウ)	帝国主義が世界に及ぼした影響について理解し、説明できる。		帝国主義が世界に及ぼした影響について理解できる。		帝国主義が世界に及ぼした影響について理解できない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	フランス革命と産業革命を経て、19世紀に欧米の社会は大きく変化した。工業化・都市化・義務教育など、現代社会の基礎が成立したのが、まさにこの時代である。また圧倒的な経済力・軍力をもって、列強はアジア・アフリカを植民地化した。現在アジア・アフリカ諸国は独立を果たしたものの、植民地支配の影響は、いまだに残っている。本講義では、現代社会と世界情勢についての理解を深めるために、ドイツを中心として19世紀から20世紀初頭までのヨーロッパの歴史について講義する。				
授業の進め方・方法					
注意点	内容理解のため、予習、復習を欠かさないこと				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 「ドイツ」とは何か?	現代ドイツ事情と「ドイツ」という概念の定義の難しさについて理解できる。	
		2週	プロイセン王国	プロイセン王国の歴史について理解できる。	
		3週	ビスマルクによるドイツ統一	ビスマルクによるドイツ統一について理解できる。	
		4週	ドイツ帝国の統治構造	ドイツ帝国の統治構造について理解できる。	
		5週	ビスマルク時代	ビスマルク時代の内政、外交、社会について理解できる。	
		6週	ビスマルク時代	ビスマルク時代の内政、外交、社会について理解できる。	
		7週	ヴィルヘルム2世の即位と新航路政策	ヴィルヘルム2世時代の内政、外交、社会について理解できる。	
		8週	ヴィルヘルム2世の即位と新航路政策	ヴィルヘルム2世時代の内政、外交、社会について理解できる。	
	4thQ	9週	ドイツ帝国の社会と文化	ドイツ帝国の社会構造の変化と文化について理解できる。	
		10週	ドイツ帝国の社会と文化	ドイツ帝国の社会構造の変化と文化について理解できる。	
		11週	ドイツの拡張政策と海外植民地	ドイツの拡張政策と海外植民地について理解できる。	
		12週	ドイツの拡張政策と海外植民地	ドイツの拡張政策と海外植民地について理解できる。	
		13週	第一次世界大戦の勃発	第一次世界大戦勃発にいたる経緯と序盤戦について理解できる。	
		14週	総力戦体制の構築	総力戦体制の登場について理解できる。	
		15週	ドイツの敗北と第一次世界大戦の終結	ドイツの敗北と第一次世界大戦の終結について理解できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		70	30	100	
基礎的能力		70	30	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	現代社会学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	04210	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	教科書は特に指定せず、講義はプリントに沿っておこなう。/ 新詳高等地図、新編地理資料を必ず持参する事。(※いずれも1年次地理A・Bにて使用したもの)				
担当教員	高橋 清吾				
到達目標					
(ア)都市とは何かについて社会学的視点から説明できる。 (イ)都市社会学の諸理論の基礎を理解できる。 (ウ)グローバル化と都市における労働・産業について理解できる。 (エ)グローバル化する都市がかかえる社会問題について理解できる。 (オ)世界都市、創造都市、産業グローバル化地域といった現代都市を読み解くキーワードについて理解できる。					
ルーブリック					
	到達レベルの目安 (優)	到達レベルの目安 (良)	到達レベルの目安 (不可)		
都市社会における「関係」を理解する。	都市社会を取り巻く「関係」を踏まえたうえで、よりよい社会づくりに向けて提案を行う。	都市社会を取り巻く「関係」を把握し理解する。	都市社会を取り巻く「関係」を具体例から把握することができない。		
都市社会における「影響」を理解する。	都市社会を取り巻く「影響」を踏まえたうえで、よりよい社会づくりに向けて提案を行う。	都市社会を取り巻く「影響」を把握し理解する。	都市社会を取り巻く「影響」を具体例から把握することができない。		
都市社会における「構造」を理解する。	都市社会を取り巻く「構造」を踏まえたうえで、よりよい社会づくりに向けて提案を行う。	都市社会を取り巻く「構造」を把握し理解する。	都市社会を取り巻く「構造」を具体例から把握することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	本講義では、都市社会学の視点からグローバル化する都市の諸側面にアプローチし、現代社会の問題を読み解く。具体的には、都市社会学における概念や理論の基礎を学びつつ、グローバル化する現代都市の特徴を表出させる社会構造を探っていきたい。とりわけ、本講義では日本のさまざまな都市と事例を取り上げ、そこに生きる人びとと彼らの労働 / 社会生活に焦点をあてる。なお、受講者には発表を義務付け、課題点として評価する。				
授業の進め方・方法	講義、ディスカッション、発表等。				
注意点	授業内容に該当する項目について、科目担当教員の薦める文献等で予め調べてくること。また、継続的に授業内容の復習を行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	イントロダクションーグローバル化と都市	グローバル化や都市の基礎を理解することができる。	
		2週	都市問題の諸相	都市問題の具体例を捉えることができる。	
		3週	都市問題の諸相	都市問題の発生メカニズムを理解することができる。	
		4週	社会学の成り立ち：階級と階層	都市における階級と階層の基礎を理解することができる。	
		5週	社会学の成り立ち：階級と階層	都市における階級と階層の基礎を理解することができる。	
		6週	都市の捉え方①シカゴ学派	シカゴの歴史を近代化の関係から理解することができる。	
		7週	都市の捉え方①シカゴ学派	シカゴ学派の考え方を理解することができる。	
		8週	都市の捉え方①シカゴ学派	シカゴ学派の考え方を理解することができる。	
	4thQ	9週	都市の捉え方②世界都市論	様々な世界都市のタイプを理解することができる。	
		10週	都市の捉え方②世界都市論	世界都市形成のメカニズムを理解することができる。	
		11週	都市の捉え方②世界都市論	世界都市における諸問題の発生メカニズムを理解することができる。	
		12週	都市の捉え方③：グローバルシティ論	グローバルシティ論の全体像を理解することができる。	
		13週	都市の捉え方③：グローバルシティ論	世界都市論も踏まえつつ、グローバルシティ論の基礎を理解することができる。	
		14週	都市の捉え方③：グローバルシティ論	グローバルシティにおける諸問題の発生メカニズムを理解することができる。	
		15週	まとめ	これまでの内容を整理し、理解を深める。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	課題	合計		
総合評価割合	70	30	100		
基礎的能力	70	30	100		

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	経済学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	04211		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	テキストは特に指定しない。/テーマに応じて資料を配布する。				
担当教員	加藤 健				
到達目標					
(ア)社会政策・社会保障・社会福祉の基本的な仕組みを理解することができる。 (イ)社会政策・社会保障・社会福祉に関する発想やその意義を歴史的に考察することができる。 (ウ)現在の社会政策・社会保障・社会福祉の問題点を指摘することができる。 (エ)今後の社会政策・社会保障・社会福祉の在り方に対して自分の意見を構築することができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	社会政策・社会保障・社会福祉の基本的な仕組みを理解し、他者に説明することができる。		社会政策・社会保障・社会福祉の基本的な仕組みを理解することができる。		社会政策・社会保障・社会福祉の基本的な仕組みを理解することができない。
評価項目(イ)	社会政策・社会保障・社会福祉に関する発想やその意義を歴史的に考察し、現代的な問題と関連付けて検討することができる。		社会政策・社会保障・社会福祉に関する発想やその意義を歴史的に考察することができる。		社会政策・社会保障・社会福祉に関する発想やその意義を歴史的に考察することができない。
評価項目(ウ)	現在の社会政策・社会保障・社会福祉の問題点を適切に指摘することができる。		現在の社会政策・社会保障・社会福祉の問題点を指摘することができる。		現在の社会政策・社会保障・社会福祉の問題点を指摘することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	人間は、生きていく上で常に健康で順調であるとは限らない。例えば、疾病、ケガ、障がい、失業、老齢といった様々な危機に直面する可能性がある。このような状況を個人や家族のみで解消することができない場合、どのような社会的な政策や制度を設計する必要があるだろうか。本講義では、時事問題を適宜取り上げながら、社会政策、社会保障、社会福祉に関する基礎的・基本的な事柄について検討していく。「経済学Ⅱ」(後学期)では、格差・貧困問題、家族・育児・公共支援、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉について取り上げる。				
授業の進め方・方法					
注意点	毎回の講義で取り上げるトピックについて、講義時間外にも積極的に考えたり調べたりすることが望ましい。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	イントロダクション：社会政策、社会保障、社会福祉	社会政策、社会保障、社会福祉の基本的な枠組みが理解できる。	
		2週	「健康で文化的な最低限度の生活」とは何か？	「生存権」の内実について理解できる。	
		3週	排除と包摂：「援助に値する者」と「援助に値しない者」の選別	排除と包摂について、基本的な考え方を理解できる。	
		4週	格差・貧困問題 (1)：社会問題としての貧困、絶対的貧困と相対的貧困	絶対的貧困と相対的貧困について理解できる。	
		5週	格差・貧困問題 (2)：子どもの貧困、高齢者の貧困、若者の貧困、貧困の連鎖	子ども、高齢者、若者の貧困について理解できる。	
		6週	格差・貧困問題 (3)：生活扶助制度、生活保護、「反貧困」の運動	生活保護制度について理解できる。	
		7週	家族・育児・公共支援 (1)：家族の役割、結婚、出産、子育て	家族の役割について理解できる。	
		8週	家族・育児・公共支援 (2)：女性の社会進出と育児、育児不安、保育	女性の社会進出と育児について考えることができる。	
	4thQ	9週	児童福祉 (1)：児童福祉の仕組みと現状	児童福祉について理解できる。	
		10週	児童福祉 (2)：子どもを取り巻く課題	子どもを取り巻く課題について考えることができる。	
		11週	障がい者福祉 (1)：「障がい」と「障がい者」の理解、障がい者福祉の制度と体系	障がい者福祉について理解できる。	
		12週	障がい者福祉 (2)：障がい者差別の温床とその克服、ノーマライゼーション	障がい者福祉について理解できる。	
		13週	高齢者福祉 (1)：高齢者福祉の歴史的変遷、老後不安	高齢者福祉について理解できる。	
		14週	高齢者福祉 (2)：高齢者福祉の仕組みと現状、課題	高齢者福祉について理解できる。	
		15週	理解度の確認		
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	法学Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	04212		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	4	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	『スタートライン民法総論 [第2版]』池田真朗 (日本評論社) ISBN 978-4535518292 / 『ブレップ 法学を学ぶ前に』道垣内弘人 (弘文堂) ISBN 978-4335313127_x000B_『スタートライン債権法 [第6版]』池田真朗 (日本評論社)				
担当教員	佃 貴弘				
到達目標					
(ア)法令の構造や基本的な法令用語を知ること、具体的な法律の条文の形式的な意味をつかめるようにする。 (イ)刑事事件と民事事件について、それらがどのような目的で作られたことを知ることで、その違いを理解する。 (ウ)近代民法の基本原則について知るとともに、現代社会においてはそれが修正されていることを理解する。 (エ)契約が成立するための条件 (成立要件)、契約が無効・取消し可能となる条件 (有効要件) について理解する。 (オ)民法上の責任 (債務不履行責任・不法行為責任) について、その法律要件と法律効果について理解する。 (カ) (著作権などの) 知的財産権と所有権との違いを理解する。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目(ア)		法令の構造や基本的な法令用語を知ること、具体的な法律の条文の形式的な意味を理解し、説明できる。	法令の構造や基本的な法令用語を知ること、具体的な法律の条文の形式的な意味を理解できる。	法令の構造や基本的な法令用語を知ること、具体的な法律の条文の形式的な意味を理解できない。	
評価項目(イ)		刑事事件と民事事件について、それらがどのような目的で作られたことを知ることで、その違いを理解し、説明できる。	刑事事件と民事事件について、それらがどのような目的で作られたことを知ることで、その違いを理解できる。	刑事事件と民事事件について、それらがどのような目的で作られたことを知ることで、その違いを理解できない。	
評価項目(ウ)		近代民法の基本原則について知るとともに、現代社会においてはそれが修正されていることを理解し、説明できる。	近代民法の基本原則について知るとともに、現代社会においてはそれが修正されていることを理解できる。	近代民法の基本原則について知るとともに、現代社会においてはそれが修正されていることを理解できない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	この科目では、現代社会や法学Ⅰの授業で扱った日本国憲法や政治制度を踏まえ、法令の構造・裁判制度・民法を扱っていく。まず、裁判制度を踏まえて、法律家が何をしているのかを説明する。次に、民法が個人と個人の生活関係についてどのように定めているかを、契約・不法行為・物権 (所有権) という視点から説明する。最後に、受講生の所属学科の割合に応じて、時事的な問題または専門分野と法学 (とくに民法) とが学際的に関連する内容を扱っていく。				
授業の進め方・方法	授業内容を理解しているを確認するために、毎回、「小テスト」を実施する。また、「課題」として、やや難易度の高い問題不定期に出題する。さらに、冬季休業の期間中に「レポート」を出題する。				
注意点	「法学Ⅰ」を履修しているが、その科目の履修を前提としない。受講生の専門分野に応じて、授業の進み具合を変更したり、専門分野に関連する内容に変更することがある。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	法の体系と形式一法の分類、近代民法の三大原則 (私的自治の原則・所有権絶対の原則・過失責任主義)	法学の体系を把握し、この授業の内容が、その法体系のなかのどの分野に属しているのかを知る。	
		2週	法令の構成・表現一法令の構成 (本則・附則など) ・表現 (本文・ただし書など)	法令・条文の構造をつかめるようになる。	
		3週	法の適用一裁判制度、民法と刑法、審級制度、違憲審査制	刑法と民法について、それらがどのような目的で作られたことを知り、その違いを理解する。	
		4週	法学における議論の特徴一法的三段論法、法律要件と法律効果	基本的な法令用語を知ること、具体的な法律の条文の形式的な意味をつかめるようになる。	
		5週	契約の成立要件一債権 (債務) とは何か、契約の成立要件 (申込みと承諾)	契約が成立するための条件 (成立要件) が理解する。	
		6週	契約の有効要件一公序良俗違反、意思の欠缺 (心裡留保、虚偽表示、錯誤)、瑕疵ある意思表示 (詐欺、強迫)	契約が無効・取消し可能となる条件 (有効要件) について理解する。	
		7週	契約の有効要件一公序良俗違反、意思の欠缺 (心裡留保、虚偽表示、錯誤)、瑕疵ある意思表示 (詐欺、強迫)	契約が無効・取消し可能となる条件 (有効要件) について理解する。	
		8週	契約の効力一債務不履行責任 (強制履行、解除、損害賠償)	契約が無効・取消し可能となる条件 (有効要件)、債務不履行責任について理解する。	
	4thQ	9週	物権法の概観一物・物権とは何か、物権 (所有権) の移転、対抗要件	物権 (所有権) の意味を理解し、日本における所有権ルールを理解する。	
		10週	不法行為法の重点学習一故意・過失、権利侵害、因果関係、損害	民法上の責任 (不法行為責任) について、その法律要件と法律効果について理解する。	
		11週	知的財産法の概観一物権 (所有権) との異同、特許法・著作権法の概要	(著作権などの) 知的財産権と所有権との違いを理解する。	
		12週	工学分野と密接に関わる特別法一製造物責任・不正競争防止法などから、工学と法学と学際的に絡む問題を扱う	製造物責任・不正競争防止法などから、工学と法学と学際的に絡む問題を知る	
		13週	工学分野と密接に関わる特別法一製造物責任・不正競争防止法などから、工学と法学と学際的に絡む問題を扱う	製造物責任・不正競争防止法などから、工学と法学と学際的に絡む問題を知る	

	14週	総合問題—時事的問題または受講生の専門分野と法学が学際的に絡む問題を扱う	時事的問題または受講生の専門分野と法学が学際的に絡む問題を知る
	15週	総合問題—時事的問題または受講生の専門分野と法学が学際的に絡む問題を扱う	時事的問題または受講生の専門分野と法学が学際的に絡む問題を知る
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	小テスト	課題	レポート	合計
総合評価割合	65	5	10	20	100
基礎的能力	65	5	10	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	科学英語基礎ⅡB
科目基礎情報					
科目番号	04225	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	「Science Updates」 Hiroto Nagata 他著 (成美堂) (ISBN978-4-7919-4783-6 C1082)/プリント教材				
担当教員	神谷 昌明, 出嶋 真由美				
到達目標					
(ア) 科学論説文の読解に必要な語彙を習得する。 (イ) 基礎文法 (使役動詞、助動詞、仮定法など) を習得し、運用できる。 (ウ) 科学論説文で使用される基礎単語を聞き取ることができる。 (エ) 科学論説文を読んで、概要や要点を把握することができる。 (オ) 科学論説文を読んで、目的に応じて必要な情報を捉えることができる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	科学論説文の読解に必要な語彙を習得する。	科学論説文の読解に必要な語彙が理解できる。	科学論説文の読解に必要な語彙が理解できない		
評価項目(イ)	基礎文法 (使役動詞、助動詞、仮定法など) を習得し、運用できる。	基礎文法 (使役動詞、助動詞、仮定法など) が理解できる。	基礎文法 (使役動詞、助動詞、仮定法など) が理解できない。		
評価項目(ウ)	科学論説文で使用される基礎単語を聞き取ることができる。	科学論説文で使用される基礎単語を (何回も聞けば) 聞き取ることができる。	科学論説文で使用される基礎単語を聞き取ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	3年次の「科学英語基礎Ⅰ AB」ならびに「科学基礎ⅡA」で習得した科学・技術分野で使用される語彙、語法・文法の知識を基礎とし、さらにレベルアップした科学論説文を題材に、その英文読解の訓練を行う。教科書で扱っているトピックは多岐にわたり、科学論説文ゆえ、分析と観察に基づく明快な結論が提示されている。読解に加えて、文法の復習と確認、英作文の練習を行い、文法力の伸長を図りたい。また、科学論説文の読解に必要な語彙の定着のための語彙学習も行う。				
授業の進め方・方法					
注意点					
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	耐性昆虫との闘いについての英文読解	耐性昆虫との闘いについての英文が理解できる。	
		2週	耐性昆虫との闘いについての英文読解	耐性昆虫との闘いについての英文が理解できる。	
		3週	寄生についての英文読解	寄生についての英文が理解できる。	
		4週	寄生についての英文読解	寄生についての英文が理解できる。	
		5週	斜塔についての英文読解	斜塔についての英文が理解できる。	
		6週	斜塔についての英文読解	斜塔についての英文が理解できる。	
		7週	ニュートンとプリズム実験についての英文読解	ニュートンとプリズム実験についての英文が理解できる。	
		8週	ニュートンとプリズム実験についての英文読解	ニュートンとプリズム実験についての英文が理解できる。	
	4thQ	9週	フーコーの振り子についての英文読解	フーコーの振り子についての英文が理解できる。	
		10週	知能についての英文読解	知能についての英文が理解できる。	
		11週	眠りの不思議についての英文読解	眠りの不思議についての英文が理解できる。	
		12週	再生医療についての英文読解	再生医療についての英文が理解できる。	
		13週	地球外生命についての英文読解	地球外生命についての英文が理解できる。	
		14週	月についての英文読解	月についての英文が理解できる。	
		15週	後期の(総)まとめ	科学英語に出てくる基本的な専門語彙・語法が理解できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	中間試験	定期試験	課題	合計	
総合評価割合	30	50	20	100	
基礎的能力	30	50	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)	授業科目	日本語Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	04351		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	4	
開設期	通年		週時間数	2	
教科書/教材	適宜プリント配布				
担当教員	眞野 道子				
到達目標					
(ア)日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。 (イ)日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。 (ウ)自然なスピードの日本語の音声を、的確に聞き取り、その内容を正確に把握できる。 (エ)論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、内容を正確に把握できる。 (オ)様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。 (カ)様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、レポートや論文として適切に表現できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。		日本語能力試験N1レベルの文法を理解できる。		日本語能力試験N1レベルの文法を理解できない。
評価項目(イ)	日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。		日本語能力試験N1レベルの語彙を理解できる。		日本語能力試験N1レベルの語彙を理解できない。
評価項目(ウ)	自然なスピードの日本語の音声を、的確に聞き取り、その内容を正確に把握できる。		自然なスピードの日本語の音声を聞き取ることができる。		自然なスピードの日本語の音声を聞き取ることができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本語が母語ではない留学生であっても、日本で生活し、学業に専念する以上、日本語力の向上は必要不可欠である。留学生が、日常生活のコミュニケーションや授業を受講する際に要求されるのは、「読む・書く・話す・聞く」という四つの基本的な能力である。それらをより向上させるために、日本語能力試験N1取得を具体的な目標として設定し、それに向けて、必要な語彙・文法などを学んでいく。それと並行して、卒業研究を見据え、論文の書き方の基本も学習する。				
授業の進め方・方法					
注意点	授業内容の詳細は、学生の日本語レベルに応じて決定する。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	ガイダンス・プレースメントテスト (文法・語彙・聴解・読解)		
		2週	N1レベルの文法・語彙 (問題演習を通じた基礎事項の確認と応用)	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。	
		3週	N1レベルの文法・語彙 (問題演習を通じた基礎事項の確認と応用)	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。	
		4週	聴解 (日本語の自然な会話やニュースなどの聞き取りおよびそれに関する意見の発表)	自然なスピードの日本語の音声を、的確に聞き取り、その内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。	
		5週	N1レベルの文法・語彙 (問題演習を通じた基礎事項の確認と応用)	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。	
		6週	N1レベルの文法・語彙 (問題演習を通じた基礎事項の確認と応用)	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。	
		7週	読解 (やや難解な日本語の文章の内容把握およびそれに関する意見の発表)	論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。	
		8週	N1レベルの文法・語彙 (問題演習を通じた基礎事項の確認と応用)	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。	
	2ndQ	9週	N1レベルの文法・語彙 (問題演習を通じた基礎事項の確認と応用)	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。	
		10週	聴解 (日本語の自然な会話やニュースなどの聞き取りおよびそれに関する意見の発表)	自然なスピードの日本語の音声を、的確に聞き取り、その内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。	
		11週	N1レベルの文法・語彙 (問題演習を通じた基礎事項の確認と応用)	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。	
		12週	N1レベルの文法・語彙 (問題演習を通じた基礎事項の確認と応用)	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。	
		13週	読解 (やや難解な日本語の文章の内容把握およびそれに関する意見の発表)	論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。	

		14週	N1レベルの文法・語彙（問題演習を通じた基礎事項の確認と応用）	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。
		15週	N1レベルの文法・語彙（問題演習を通じた基礎事項の確認と応用）・今期のまとめ	日本語能力試験N1レベルの文法を理解し、使いこなすことができる。日本語能力試験N1レベルの語彙を理解し、使いこなすことができる。
		16週		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス・聴解（日本語の自然な会話やニュースなどの聞き取りおよびそれに関する意見の発表）	自然なスピードの日本語の音声を、的確に聞き取り、その内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
		2週	読解（やや難解な日本語の文章の内容把握およびそれに関する意見の発表）	論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
		3週	ライティング（論文・レポートの書き方の習得）	様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、レポートや論文として適切に表現できる。
		4週	聴解（日本語の自然な会話やニュースなどの聞き取りおよびそれに関する意見の発表）	自然なスピードの日本語の音声を、的確に聞き取り、その内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
		5週	読解（やや難解な日本語の文章の内容把握およびそれに関する意見の発表）	論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
		6週	ライティング（論文・レポートの書き方の習得）	様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、レポートや論文として適切に表現できる。
		7週	聴解（日本語の自然な会話やニュースなどの聞き取りおよびそれに関する意見の発表）	自然なスピードの日本語の音声を、的確に聞き取り、その内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
		8週	読解（やや難解な日本語の文章の内容把握およびそれに関する意見の発表）	論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
	4thQ	9週	ライティング（論文・レポートの書き方の習得）	様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、レポートや論文として適切に表現できる。
		10週	聴解（日本語の自然な会話やニュースなどの聞き取りおよびそれに関する意見の発表）	自然なスピードの日本語の音声を、的確に聞き取り、その内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
		11週	読解（やや難解な日本語の文章の内容把握およびそれに関する意見の発表）	論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
		12週	ライティング（論述演習）	様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、レポートや論文として適切に表現できる。
		13週	聴解（日本語の自然な会話やニュースなどの聞き取りおよびそれに関する意見の発表）	自然なスピードの日本語の音声を、的確に聞き取り、その内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
		14週	読解（やや難解な日本語の文章の内容把握およびそれに関する意見の発表）	論理的にやや複雑な文章や抽象度の高い文章などを読んで、内容を正確に把握できる。様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、口頭で適切に表現できる。
		15週	ライティング（論述演習）・今期のまとめ	様々な表現・語彙を駆使し、自分の考えを、レポートや論文として適切に表現できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合		50	25	25	100
基礎的能力		50	25	25	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	保健体育V A
科目基礎情報					
科目番号	05102		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	実技		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	「ACTIVE SPORTS」(大修館書店) / プリント ビデオ教材				
担当教員	伊藤 道郎, 高津 浩彰, 加藤 貴英, 鈴木 康平				
到達目標					
<p>(ア)生涯スポーツについての位置付けを理解し積極的に運動を実践することができる。</p> <p>(イ)練習やゲームを自ら計画し、実践することができる。</p> <p>(ウ)各種目の特性を理解し、それに応じた練習が出来る。</p> <p>(エ)自己の体力に応じた運動の量と質を自ら設定できる。</p> <p>(オ)一定の運動量を獲得し、基礎体力を高める。</p> <p>(カ)自他の健康・安全にも留意して学習が進められる。</p> <p>(キ)集団での戦術を理解し、実践することができる。</p> <p>(ク)個人での戦術を理解し、実践することができる。</p> <p>(ケ)自らの体力レベルを理解し、体力目標を設定し、目標達成の為に積極的に努力することができる。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	数人でグループを作り、決められたグループ内のメンバーで協力してスポーツテストが実施できる。	グループ内のメンバーと協力してスポーツテストが実施できる。	グループ内のメンバーと協力してスポーツテストが実施できない。		
	数人でグループを作り、決められたグループ内のメンバーで協力して様々な競技種目が実施できる。	グループ内のメンバーと協力して様々な競技種目が実施できる。	グループ内のメンバーと協力して様々な競技種目が実施できない。		
	各種目の特性を理解し、それに応じた実践ができる。	各種目の特性を理解できる。	各種目の特性を理解できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
教育方法等					
概要	スポーツテストを実施することで自分の体力レベルを把握する。健康的な社会生活を送るためのスポーツの重要性を認識するとともに、生涯にわたってスポーツを楽しむための基盤を身に付ける。既習の球技系種目について、競技規則を十分に理解し、互いの安全を確保しながら、自主的かつ協力し合って練習計画と試合運営ができるように学ぶ。				
授業の進め方・方法					
注意点	ジャージを着用し、使用施設にあったシューズを使用する。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンスおよびスポーツテスト(握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳び)	握力、長座体前屈、上体起こし、反復横跳びの測定を実施することができる。	
		2週	ガイダンスおよびスポーツテスト(50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げ)	50m走、立ち幅跳び、ハンドボール投げの測定を実施することができる。	
		3週	ガイダンスおよびスポーツテスト(シャトルラン)	シャトルランの測定を実施することができる。	
		4週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	グループメンバーと協力してソフトボールの練習ができる。	
		5週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	グループメンバーと協力してソフトボールの試合ができる。	
		6週	テニス(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力してテニスの練習ができる。	
		7週	テニス(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力してテニスの試合ができる。	
		8週	バレーボール(6人制)	グループメンバーと協力してバレーボールの練習ができる。	
	2ndQ	9週	バレーボール(6人制)	グループメンバーと協力してバレーボールの試合ができる。	
		10週	卓球(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力して卓球の練習ができる。	
		11週	卓球(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力して卓球の試合ができる。	
		12週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	グループメンバーと協力してバスケットボールの練習ができる。	
		13週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	グループメンバーと協力してバスケットボールの試合ができる。	
		14週	バドミントン(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力してバドミントンの練習ができる。	
		15週	バドミントン(シングルス、ダブルス)	グループメンバーと協力してバドミントンの試合ができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

分野横断的 能力	態度・志向 性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向 性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	前4,前5,前 6,前7,前 8,前9,前 10,前11,前 12,前13,前 14,前15
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	前4,前5,前 6,前7,前 8,前9,前 10,前11,前 12,前13,前 14,前15
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	前4,前5,前 6,前7,前 8,前9,前 10,前11,前 12,前13,前 14,前15

評価割合

	スポーツテスト	実技課題	合計
総合評価割合	20	80	100
基礎的能力	20	80	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語ⅡA
科目基礎情報				
科目番号	05103	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	一般教育	対象学年	5	
開設期	前期	週時間数	前期:2	
教科書/教材	Our Place in the Universe (成美堂) ISBN978-4-7919-1015-1			
担当教員	鈴木 基伸, 藤村 すみゑ			

到達目標

- (ア) 高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。
 (イ) 科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。
 (ウ) 英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。
 (エ) 文脈から適切な語彙を選択することができる。
 (オ) 指示により適切な英語構文を完成させることができる。
 (カ) 知らない単語の意味を文脈の中で推測することができる。
 (キ) TOEIC350点相当の英語運用能力を有する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目	毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。	毎分120語～150語の速さの英文を、2回繰り返し聞いて聞いた予備的な活動を経て、毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。	毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができない。
評価項目	科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。	科学英語の背景的知識の理解、および、図式化によるパラグラフの構造の理解といった予備的な活動を経て、科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。	科学英語の各パラグラフの内容把握ができない。
評価項目	英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。	英文の音読や文構造や語法の関連問題演習といった予備的な活動を経て、英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。	英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	この科目は総合的な英語力を高めることを目的とするものである。具体的には、これまでに学習した語彙(約3300語)・文法・語法などを確認しながら、さまざまなトピックの英文を速読・多読で身につけたスキルを基に直読直解方式で読む。同時にリスニング力向上をめざしてさまざまな場面の英語を聞き内容を理解する訓練を行う。これらの活動を通して、活きた英語力を養成していく。
授業の進め方・方法	
注意点	TOEIC350点相当とは、本授業が受講者全員の350点を保証するという意味ではなく、科目成績とTOEICとの回帰曲線において科目成績60点がTOEIC350点に対応することを意味する。x000D (自学自習内容) 毎週、授業内容に該当するUnitの英文を読み、語彙、文法、内容に関する問いなどのタスクを行うこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1週	オリエンテーション 英語診断テスト	英語IIの授業内容を把握する。英語診断テストを通して、現時点の自身の英語力を把握する。	
	2週	英文読解① ("Impact Craters")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。	
	3週	英文読解② ("Tides")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。	
	4週	英文読解③ ("The Great Pacific Garbage Patch")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。	
	5週	英文読解④ ("Colors in the Sky")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。	
	6週	英文読解⑤ ("Climate Modeling")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。	
	7週	英文読解⑥ ("Dark Matter and Dark Energy")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。	
	8週	英文読解⑦ ("Natural Selection")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。	
	2ndQ	9週	英文読解⑧ ("Rockets")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		10週	英文読解⑨ ("The Hazards of Space Travel")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		11週	英文読解⑩ ("The Cassini-Hugens Mission")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		12週	英文読解⑪ ("Space Junk")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		13週	復習① (英文読解①～⑥)	第2～7週の本文の総復習を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。

		14週	復習②（英文読解⑦～⑪）	第7～12週の本文の総復習を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		15週	まとめ	第2、3、4週の英文の内容理解を英語発表の形で、各自、示す。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	文学特論
科目基礎情報					
科目番号	05104		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	プリント 『常用国語便覧』 / 授業中、適宜指示する。				
担当教員	山口 比砂				
到達目標					
(ア) 文学理論の用語を正しく理解し、文学理論を使ってテキスト分析ができる (イ) 文学テキストをメディアや経済、国民国家形成との関わりから分析できる。 (ウ) 印刷物やインターネットから、報告・論文の目的にふさわしい情報を収集できる。 (エ) 収集した情報を分析して取捨選択し、報告・論文の目的に応じて整理できる。 (オ) 整理した情報をもとに、主張が効果的に伝わるように論理構成や展開を工夫して、報告・論文を作成できる。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	文学理論の理解に基づき、考察を深める論文作成にふさわしい情報を収集ができる。	文学理論の基本的な用語や批評理論が理解できる。	文学理論の基本的な用語や批評理論が理解できない。		
評価項目(イ)	文学環境論の理解に基づき、考察を深める論文作成にふさわしい情報を収集ができる。	文学環境論の基本的な考え方や分析方法が理解できる。	文学環境論の基本的な考え方や分析方法が理解できない。		
評価項目(ウ)	収集した情報を分析・整理して、主張が効果的に伝わるよう工夫して論文を作成できる。	収集した情報を論文の目的に応じて分析・整理できる。	収集した情報を論文の目的に応じて分析・整理できない。		
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
教育方法等					
概要	本講義では、明治から大正にかけての日本近代文学の小説を「文学理論」(内在的アプローチ)と「文学環境論」(外在的アプローチ)の二方面から分析していく。小説の内部を分析する「文学理論」では、虚構世界構築のために使われている技法など、批評理論を用いてテキストを検証する。また、小説の外部に注目する「文学環境論」では、文学を社会的な文学現象として捉え、メディアと読者のあり方を検証する。これらの考察により、我々を取り巻く言説内部のメカニズムを客観的に分析する力を獲得するだけでなく、言説を様々な領域との相互作用の中で理解し、広く世界を概観できる力を身に付けることを目標とする。				
授業の進め方・方法					
注意点	小説を鑑賞するのではなく、小説の構造や受容の諸相を「分析」することが目的であることを理解した上で受講すること。毎時間、その回の到達目標の達成度を評価するための課題テストを実施する。初回の講義において、講義全体の概要、課題などの詳細を説明するので、受講希望者は必ず出席すること。公的な理由なく初回の講義に欠席した者の履修登録は認めない。自学自習内容: 指示したテキストは通読した上で受講すること。授業後は必ず復習し、学習内容の理解を深めること。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション — 文学理論・文学環境論とは何か	文学理論・文学環境論について、その概要を理解できる。	
		2週	文学理論 1 コード — 小説の枠組みと読みの指標	小説の枠組みと読みの指標(コード)について理解できる。	
		3週	文学理論 2 ストーリー — 小説の時間と物語言説	小説の物語時間と物語言説の関係について理解できる。	
		4週	文学理論 3 物語論 — 語り手の役割とは何か	物語論の種類と物語における語り手の役割について理解できる。	
		5週	文学理論 4 間テキスト性 — オリジナルとパロディ	テキスト概念と間テキスト性について理解できる。	
		6週	文学理論 5 テキスト生成論 — 精神分析と草稿研究	草稿研究と精神分析の関係性について理解できる。	
		7週	文学理論 6 ジェンダー理論 — 女性はどう描かれているか	小説世界の女性の描かれ方をジェンダー的視点から理解できる。	
		8週	文学環境論 1 文学者のイメージ形成 — 肖像写真と文学	文学者のイメージ形成と肖像写真の関係を理解できる。	
	2ndQ	9週	文学環境論 2 神話化する作家像 — 夏目漱石と宮沢賢治	神話化する作家像の形成とテキストの関係について理解できる。	
		10週	文学環境論 3 国民国家形成と文学 — 立身出世の系譜	国民国家形成と文学の関係を立身出世の系譜から理解できる。	
		11週	文学環境論 4 「日本」の再発見 — 国民表象としての文学	国民国家形成期の国民表象としての文学のあり方を理解できる。	
		12週	文学環境論 5 「声」が創る心的共同体 — 大衆の求める物語	近代日本における国民国家形成と大衆芸能の関係を理解できる。	
		13週	文学環境論 6 経済活動としての文学 — 明治の出版事情	明治の出版事情に注目し、経済と文学の関係を理解できる。	
		14週	文学環境論 7 大正文学市場と芥川龍之介の戦略	大正文学市場と芥川龍之介のイメージ戦略について理解できる。	
		15週	まとめ(学習内容・学習成果を振り返り、整理する)	文学理論・文学環境論を学ぶことの意味を理解できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前15
評価割合						
			定期試験	課題	合計	
総合評価割合			60	40	100	
基礎的能力			60	40	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	ドイツ語 A
科目基礎情報					
科目番号	05105		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	前期:2	
教科書/教材	Schritte international A1/1 Hueber				
担当教員	谷口 祐美子				
到達目標					
(ア)簡単なあいさつができる (イ)自己紹介ができる (ウ)規則動詞の人称変化を理解して使える (エ)sein動詞の人称変化ができる (オ)habenの人称変化ができる (カ)名詞の性と複数形を理解する (キ)数字を理解して使える (ク)否定冠詞を理解して使える (ケ)不規則動詞の人称変化を理解して使える					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
評価項目	簡単なあいさつ・自己紹介ができる。	簡単なあいさつ・自己紹介が理解できる。	簡単なあいさつ・自己紹介ができない。		
評価項目	規則動詞・不規則動詞・sein動詞・haben動詞の人称変化を理解して使うことができる。	規則動詞・不規則動詞・sein動詞・haben動詞の人称変化を理解することができる。	規則動詞・不規則動詞・sein動詞・haben動詞の人称変化を理解することができない。		
評価項目	名詞の性と複数形・数字・否定冠詞を理解して使うことができる。	名詞の性と複数形・数字・否定冠詞を理解することができる。	名詞の性と複数形・数字・否定冠詞を理解することができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力					
教育方法等					
概要	ドイツ語文法の基礎を学ぶと同時に、コミュニケーション力をつけることを目標とします。「発話すること」と「聞くこと」に慣れることが最重要課題です。グループやペアでの練習による参加型授業を進めます。				
授業の進め方・方法					
注意点	初心者・初級者向けの授業です				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	L1 あいさつ 1	あいさつ (基本) ができる。	
		2週	L1 自己紹介 アルファベット	自己紹介ができる。アルファベット体系が理解できる。	
		3週	L1 動詞の現在人称変化 sein動詞	動詞の現在人称変化、sein動詞が理解できる。	
		4週	L2 あいさつ 2	あいさつ (応用) ができる。	
		5週	L2 家族と友達 数字1	家族と友達、数字1が理解できる。	
		6週	L2 不規則動詞 1 haben	不規則動詞 habenの活用が理解できる。	
		7週	L2 まとめと練習	まとめと練習を通してドイツ語の基礎が理解できる。	
		8週	L3 名詞の性 不定冠詞と否定冠詞	名詞の性、不定冠詞と否定冠詞が理解できる。	
	2ndQ	9週	L3 名詞の複数形	名詞の複数形が理解できる。	
		10週	L3 数字2 買い物	数字2、買い物の表現が理解できる。	
		11週	L3 まとめと練習	まとめと練習を通してドイツ語の基礎が理解できる。	
		12週	L4 住まい 数字3	住まい、数字3が理解できる。	
		13週	L4 定冠詞 否定形	定冠詞、否定形が理解できる	
		14週	L4 住居の広告を読む	住居の広告を読むことができる。	
		15週	L4 まとめと練習	まとめと練習を通してドイツ語の基礎が理解できる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		中間試験	定期試験	合計	
総合評価割合		40	60	100	
基礎的能力		40	60	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語Ⅲ
科目基礎情報					
科目番号	05106		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	Prospect Advanced プロスペクト 英語総合問題集 (エスト出版社)				
担当教員	神谷 昌明,水口 陽子				
到達目標					
<p>(ア)英文の各パラグラフの内容把握ができ、文脈から適切な語彙を選択することができる。</p> <p>(イ)高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得し、英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。</p> <p>(ウ)毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。TOEIC350点相当の英語運用能力を有する。</p>					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目	英文の各パラグラフの内容把握ができ、説明できる。文脈から適切な語彙を選択することができる。		英文の各パラグラフの内容把握ができ、文脈から適切な語彙を選択することができる。		英文の各パラグラフの内容把握、文脈から適切な語彙を選択することができない。
評価項目	高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得し、英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。		高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得し、英語の文構造や語法を理解している。		高等学校指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得していない。英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができない。
評価項目	毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できる。TOEIC350点相当の英語運用能力を有する。		毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読むことができる。TOEIC350点相当の英語運用能力を有する。		毎分100語程度の速度で平易な物語文などを読み、その概要を把握できない。TOEIC350点相当の英語運用能力を有していない。
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力					
教育方法等					
概要	英語総合問題を通して、これまでの本科の英語学習の文法面、語彙・構文面・読解面等の重要事項の整理をするとともに、大学編入試験や就職試験に対応する英語力を養成する。				
授業の進め方・方法	授業では、精読に力点を置き、文構造を正確に捉えながら、文意を的確に把握する演習を行う。				
注意点	必ず教科書の問題を解いてから授業に臨むこと。またTOEIC350点相当とは、本授業が受講者全員の350点を保証するという意味ではなく、科目成績とTOEICとの回帰曲線において科目成績60点がTOEIC350点に対応することを意味する。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
前期	1stQ	週	授業内容	週ごとの到達目標	
		1週	Chapter 1 Herb	ハーブについての英文を読み、内容把握ができる	
		2週	Chapter 2 Emotion	感情についての英文を読み、内容把握ができる	
		3週	Chapter 3 Animals	動物についての英文を読み、内容把握ができる	
		4週	Chapter 4 Teamwork	チームワークについての英文を読み、内容把握ができる	
		5週	Chapter 5 Sleep	睡眠についての英文を読み、内容把握ができる	
		6週	Chapter 6 Hunger	飢餓についての英文を読み、内容把握ができる。	
		7週	Chapter 7 Computer	コンピューターについての英文を読み、内容把握ができる	
	8週	Chapter 8 Territory	領域についての英文を読み、内容把握ができる		
	2ndQ	9週	Chapter 9 Technology	テクノロジーについての英文を読み、内容把握ができる	
		10週	Chapter 10 Evolution	進化についての英文を読み、内容把握ができる	
		11週	Chapter 11 Communication	コミュニケーションについての英文を読み、内容把握ができる	
		12週	Chapter 12 Writing	書くことについての英文を読み、内容把握ができる	
		13週	Chapter 13 Psychology	心理学についての英文を読み、内容把握ができる	
		14週	Chapter 14 Dogs	犬についての英文を読み、内容把握ができる	
		15週	総まとめ	文法のそれぞれの用法を理解し、使うことができる	
16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	社会科学特論 I	
科目基礎情報						
科目番号	05108		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	一般教育		対象学年	5		
開設期	前期		週時間数	2		
教科書/教材	テキストは特に指定しない。/テーマに応じて資料を配布する。					
担当教員	加藤 健					
到達目標						
(ア)歴史的バックグラウンドと経済思想の展開について理解することができる。 (イ)経済学が扱ってきたテーマの多様性について理解することができる。 (ウ)経済学者が取り上げた様々な問題を意味あるものとして捉えなおすことができる。 (エ)経済思想の歴史を学ぶことを通して、現代の「経済学」の前提となる見方を問い返すことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	現代社会における経済問題を、その思想的背景を踏まえて考察することができる。		歴史的バックグラウンドと経済思想の展開について理解することができる。		歴史的バックグラウンドと経済思想の展開について理解することができない。	
評価項目(イ)	経済学が扱ってきたテーマの多様性について理解し、現代社会における経済問題について考察することができる。		経済学が扱ってきたテーマの多様性について理解することができる。		経済学が扱ってきたテーマの多様性について理解することができない。	
評価項目(ウ)	経済学者が取り上げた様々な問題を意味あるものとして捉えなおし、現代社会における経済問題について考察することができる。		経済学者が取り上げた様々な問題を意味あるものとして捉えなおすことができる。		経済学者が取り上げた様々な問題を意味あるものとして捉えなおすことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
本校教育目標 ① ものづくり能力						
教育方法等						
概要	人間が行う経済活動の在り方は時代や状況によって様々に変化するが、人間の諸行為を認識する学問としての経済学もまた現実を反映することによって変化していく。本講義では、経済学者が実際に取り組んだテーマや問題関心などを振り返ることによって、社会を認識する経済思想の多様な側面を考察していく。とりわけ、経済学における「人間の経済活動の在り方」や「社会の在り方」に関する議論を中心に取り上げる。					
授業の進め方・方法						
注意点	講義中に取り上げた論点について、講義時間以外にも原典資料や関連文献等を活用し、積極的に考察を深めることが望ましい。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	イントロダクション：経済思想と経済学	経済思想の多様な側面を理解できる。		
		2週	市民社会から文明社会へ (1)：ホッブズ、ロック	ホッブズ、ロックの社会契約論の概要について理解できる。		
		3週	市民社会から文明社会へ (2)：ルソー、モンテスキュー、ヒューム	ルソー、モンテスキュー、ヒュームの思想の概要について理解できる。		
		4週	再生産秩序と自由一重農主義：ケネー	ケネーの思想の概要について理解できる。		
		5週	自然的自由の経済思想 (1)：スミス『道徳感情論』	スミス『道徳感情論』の概要について理解できる。		
		6週	自然的自由の経済思想 (2)：スミス『国富論』	スミス『国富論』の概要について理解できる。		
		7週	市場社会における貧困と過剰：ゴドウィン、マルサス	ゴドウィン、マルサスの比較検討し、その思想の概要について理解できる。		
		8週	市場経済の構造と発展モデル：リカード	リカードの思想の概要について理解できる。		
	2ndQ	9週	功利主義的統治と経済的自由主義 (1)：ベンサム	ベンサムの思想の概要について理解できる。		
		10週	功利主義的統治と経済的自由主義 (2)：J.S.ミル	J.S.ミルの思想の概要について理解できる。		
		11週	限界革命：ジェヴォンズ、メンガー、フルラス	限界革命の概要について理解できる。		
		12週	市場と組織の経済学：マーシャル	マーシャルの思想の概要について理解できる。		
		13週	ケンブリッジの経済思想：ケインズ	ケインズの思想の概要について理解できる。		
		14週	制度進化の経済思想：ヴェブレン、ミッチェル、コモンズ	制度学派の思想の概要について理解できる。		
		15週	理解度の確認	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14

		現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	前15
--	--	---------	---	---	-----

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	80	20	100
基礎的能力	80	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	人文科学特論 I
科目基礎情報					
科目番号	05109		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	前期		週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない/新詳高等地図、新編地理資料を必ず持参する事。(※いずれも1年次地理A・Bにて使用したもの)				
担当教員	田中 健作				
到達目標					
<p>(ア)日本の自然の特徴について理解できる。 (イ)日本の農山漁村の歴史の変遷を理解できる。 (ウ)日本の高度経済成長期以降における農山漁村の変動を理解できる。 (エ)まちおこしにおける多様な主体の関わりの重要性について理解できる。 (オ)人口減少地域における生活関連サービスの運営方法の工夫について理解できる (カ)地域資源を活用した環境負荷を軽減する地域づくりのしくみを理解できる。</p>					
ルーブリック					
	到達レベルの目安(優)		到達レベルの目安(良)		到達レベルの目安(不可)
農山村における自然環境の成り立ちを理解する。	日本農山村の地形の成因を、具体例を示して体系的に説明することができる。		一般的な地形形成メカニズムを把握することができる。		日本の地形の特徴、地名を紹介することができない。
農山村における自然と人間とのかかわりを理解する。	日本農山村の自然と人間のかかわりを、具体例を示して体系的に説明することができる。		農山村における人間活動の歴史を把握することができる。		日本農山村の自然と文化を紹介することができない。
高度経済成長期以降の日本農山村の変動を理解する。	日本の高度経済成長期以降における農山漁村の変動、具体例を示して体系的に説明することができる。		高度経済成長における空間構造の変化を把握することができる。		高度経済成長期以降の日本農山村の変化を紹介することができない。
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	日本の農山漁村は高度経済成長期以降、人口減少や老人社会化にいち早く直面してきた。それは、公共サービスの維持や里山管理、伝統文化の継承などを困難にもさせてきた。しかしそのような中で、困難を乗り越えようと、地域の多様な主体が関わる内発的/外発的なまちおこしや農業振興の新展開もみられるようになった。このような日本の農山漁村における地域的問題の構造、また、その下での課題解決策を理解していくことは、人口減少社会にある日本の将来を見据えていく思考力を養うことに結びつくと考えられる。これらを踏まえ本科目では、主に地理学の視点から日本の農山漁村の歴史の展開、社会経済的動向の基礎を理解することを目的とする。				
授業の進め方・方法	講義、ディスカッション、発表等。				
注意点	授業内容に該当する項目について、科目担当教員の薦める文献等で予め調べてくること。また、継続的に授業内容の復習を行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
	週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	イントロダクション		グループ内で意見を出し合えるようにする。
		2週	日本の自然		日本列島の自然的特徴を把握することができる。
		3週	日本の自然		日本列島の形成メカニズムを理解することができる。
		4週	日本の農山漁村の歴史的展開と伝統文化		日本農山漁村の様々な文化を把握することができる。
		5週	日本の農山漁村の歴史的展開と伝統文化		日本農山漁村の様々な文化の持つ歴史を理解することができる。
		6週	高度経済成長期以降における日本の農山漁村の変動—中心周辺論、空間的分業論との関連から—		高度経済成長期における日本の空間変動の基礎を理解することができる。
		7週	高度経済成長期以降における日本の農山漁村の変動—中心周辺論、空間的分業論との関連から—		高度経済成長期における日本の空間変動の基礎を理解することができる。
		8週	高度経済成長期以降における日本の農山漁村の変動—中心周辺論、空間的分業論との関連から—		高度経済成長期における日本の空間変動の基礎を理解することができる。
	2ndQ	9週	行財政改革の農山村への影響		行財政改革の背景を把握することができる。
		10週	行財政改革の農山村への影響		行財政改革による日本農山漁村への影響について理解することができる。
		11週	農山漁村の生活関連サービスの運営		現代日本の農山漁村における生活関連サービスの運営方法の工夫点を理解することができる。
		12週	農山漁村のまちおこしとコミュニティの維持		まちおこしにおける多様な主体の関わりの重要性について、具体例から理解することができる。
		13週	農山漁村のまちおこしとコミュニティの維持		まちおこしにおける多様な主体の関わりの重要性について、具体例から理解することができる。
		14週	農山漁村の地域資源を活用したエネルギー生産、循環型社会の形成		地域資源を活用した環境負荷を軽減する地域の仕組みを、具体例から理解することができる。
		15週	まとめ		これまでの内容を整理し、理解を深める。
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	

基礎的能力	80	20	100
-------	----	----	-----

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	保健体育V B
科目基礎情報					
科目番号	05201	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	実技	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	一般教育	対象学年	5		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	「ACTIVE SPORTS」(大修館書店) / プリント ビデオ教材				
担当教員	伊藤 道郎, 高津 浩彰, 加藤 貴英, 鈴木 康平				
到達目標					
<p>(ア)自ら積極的に運動に取り組むことができる。</p> <p>(イ)練習やゲームを自発的にかつ協力して計画し、実践することができる。</p> <p>(ウ)各種目の特性を理解し、それに応じた試合運営が出来る。</p> <p>(エ)一定の運動量を獲得し、基礎体力を高める。</p> <p>(オ)自他の健康・安全にも留意して学習が進められる。</p> <p>(カ)生涯にわたって運動に親しむ習慣を身に付ける。</p> <p>(キ)できるだけ速く長い距離を走ることが出来る。</p>					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
	決められた人数でグループを作り、そのグループ内のメンバーと協力して様々な種目の試合が実施できる。	グループ内のメンバーと協力して様々な種目の試合が実施できる。	グループ内のメンバーと協力して様々な種目の試合が実施できない。		
	各競技種目に応じた練習計画を組み立てることができる。	各競技種目に応じた練習計画の組み立てに協力することができる。	各競技種目に応じた練習計画の組み立てに協力することができない。		
	長距離で決められた距離をできるだけ早く走ることができる。	長距離で決められた距離を走ることができる。	長距離で決められた距離を走ることができない。		
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
教育方法等					
概要	健康的な社会生活を送るためのスポーツの重要性を認識するとともに、生涯にわたってスポーツを楽しむための基盤を確立する。いくつかの球技系種目の試合(大会)運営を協力して行うことにより、企画力、実行力、協調性、コミュニケーション能力を身に付ける。また、持久力の保持増進のために長距離を最大限に努力して走ることができるようにする。				
授業の進め方・方法					
注意点	ジャージを着用し、使用施設にあったシューズを使用する。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	ガイダンス	グループ分け、試合方法・運営について確認する。	
		2週	サッカー(フットサル、11人制)	受講生が協力してサッカーの試合運営をし、試合を実施する。	
		3週	サッカー(フットサル、11人制)	受講生が協力してサッカーの試合運営をし、試合を実施する。	
		4週	サッカー(フットサル、11人制)	受講生が協力してサッカーの試合運営をし、試合を実施する。	
		5週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	受講生が協力してソフトボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		6週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	受講生が協力してソフトボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		7週	ソフトボール(7人制、10人制、9人制)	受講生が協力してソフトボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		8週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	受講生が協力してバスケットボールの試合運営をし、試合を実施する。	
	4thQ	9週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	受講生が協力してバスケットボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		10週	バスケットボール(3on3のゲーム、5vs5のゲーム)	受講生が協力してバスケットボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		11週	バレーボール(6人制)	受講生が協力してバレーボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		12週	バレーボール(6人制)	受講生が協力してバレーボールの試合運営をし、試合を実施する。	
		13週	バドミントン(シングルス、ダブルス)	受講生が協力してバドミンントンの試合運営をし、試合を実施する。	
		14週	バドミントン(シングルス、ダブルス)	受講生が協力してバドミンントンの試合運営をし、試合を実施する。	
		15週	長距離走(男子5000m、女子3000mのタイムトライアル)	決められた距離を走ることができる。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	3	後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14

評価割合

	耐寒マラソン	実技課題	合計
総合評価割合	20	80	100
基礎的能力	20	80	100

豊田工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	英語ⅡB
科目基礎情報				
科目番号	05202	科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義	単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	一般教育	対象学年	5	
開設期	後期	週時間数	後期:2	
教科書/教材	Our Place in the Universe (成美堂) ISBN978-4-7919-1015-1			
担当教員	鈴木 基伸, 藤村 すみゑ			

到達目標

- (ア) 高等学校学習指導要領に示されているレベルの文法事項や構文を習得する。
(イ) 科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。
(ウ) 英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。
(エ) 文脈から適切な語彙を選択することができる。
(オ) 指示により適切な英語構文を完成させることができる。
(カ) 知らない単語の意味を文脈の中で推測することができる。
(キ) TOEIC350点相当の英語運用能力を有する。

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安
評価項目(ア)	毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。	毎分120語～150語の速さの英文を、2回繰り返し聞いて聞いた予備的な活動を経て、毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができる。	毎分160語～180語の速さの、様々な場面の英語を聞き、内容把握ができない。
評価項目(イ)	科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。	科学英語の背景知識の理解、および、図式化によるパラグラフの構造の理解といった予備的な活動を経て、科学英語の各パラグラフの内容把握ができる。	科学英語の各パラグラフの内容把握ができない。
評価項目(ウ)	英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。	英文の音読や文構造や語法の関連問題演習といった予備的な活動を経て、英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができる。	英語の文構造や語法を理解した正確な文の読み取りや作文ができない。

学科の到達目標項目との関係

本校教育目標 ④ コミュニケーション能力

教育方法等

概要	前学期に引き続いて、この科目は総合的な英語力を高めることを目的とするものである。具体的には、これまでに学習した語彙(約3300語)・文法・語法などを確認しながら、さまざまなトピックの英文を速読・多読で身につけたスキルを基に直読直解方式で読む。これらの活動を通して、活きた英語力を養成していく。
授業の進め方・方法	
注意点	TOEIC350点相当とは、本授業が受講者全員の350点を保証するという意味ではなく、科目成績とTOEICとの回帰曲線において科目成績60点がTOEIC350点に対応することを意味する。x000D_ (自学自習内容) 毎週、授業内容に該当するUnitの英文を読み、語彙、文法、内容に関する問いなどのタスクを行うこと。

選択必修の種別・旧カリ科目名

授業計画

	週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	英文読解① ("Saving the Kakapo")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		2週	英文読解② ("The Birth of Genetics")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		3週	英文読解③ ("Coral Reefs")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		4週	英文読解④ ("Life in Extreme Environments")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		5週	英文読解⑤ ("The Monarch Butterflies")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		6週	英文読解⑥ ("Earth's Human Population")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		7週	英文読解⑦ ("Lasers")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		8週	英文読解⑧ ("Renewable Energy")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
	4thQ	9週	英文読解⑨ ("Keeping Us Alive for Longer")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		10週	英文読解⑩ ("Robots")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		11週	英文読解⑪ ("Plastics")	本文全体の概要を把握するとともに、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を演習を通して理解する。
		12週	復習① (英文読解演習①～③)	第1～3週の本文の総復習を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		13週	復習② (英文読解演習④～⑥)	第4～6週の本文の総復習を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。

		14週	復習③（英文読解演習⑦～⑨）	第7～9週の本文の総復習を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		15週	復習④（英文読解演習⑩・⑪）	第10・11週の本文の総復習を通して、各英文の概要と、本文に関する文法事項・構文・重要語彙を確認する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		80	20	100	
基礎的能力		80	20	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	ドイツ語 B
科目基礎情報					
科目番号	05204		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 1	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	後期:2	
教科書/教材	Schritte international A1/1 Hueber				
担当教員	谷口 祐美子				
到達目標					
(ア)時間の表現を正しく使うことができる (イ)分離動詞を正しく使うことができる (ウ)4格を正しく使うことができる (エ)不規則動詞を正しく使うことができる (オ)助動詞を正しく使うことができる (カ)現在完了形を正しく使うことができる					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目	時間の表現を正しく使うことができる。		時間の表現を理解することができる。		時間の表現を理解することができない。
評価項目	分離動詞・4格・不規則動詞を正しく使うことができる。		分離動詞・4格・不規則動詞を理解することができる。		分離動詞・4格・不規則動詞を理解することができない。
評価項目	助動詞・現在完了形を正しく使うことができる。		助動詞・現在完了形を理解することができる。		助動詞・現在完了形を理解することができない。
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ④ コミュニケーション能力					
教育方法等					
概要	ドイツ語Aで学習した基礎を前提としたクラスです。引き続きアクティブな練習を通して、基本的なコミュニケーション力をつけることを目標とします。ドイツ語Aと同様に「発話すること」と「聞くこと」に慣れることが最重要課題です。グループやペアでの練習による参加型授業を進めます。				
授業の進め方・方法					
注意点					
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	L1～L4 復習	L1～L4 で学習した表現が理解できる。	
		2週	L5 時間	時間に関する表現が理解できる。	
		3週	L5 分離動詞	分離動詞が理解できる。	
		4週	L5 一日の出来事	一日の出来事に関する表現が理解できる。	
		5週	L5 語順	ドイツ語の語順が理解できる。	
		6週	L6 天気	天気に関する表現が理解できる。	
		7週	L6 注文する	注文に関する表現が理解できる。	
		8週	L6 4格 否定冠詞	4格、否定冠詞が理解できる。	
	4thQ	9週	L6 不規則動詞 2	不規則動詞 2 が理解できる。	
		10週	L7 助動詞 können	助動詞 könnenの活用が理解できる。	
		11週	L7 助動詞 wollen	助動詞 wollenの活用が理解できる。	
		12週	L7 現在完了形 1	現在完了形 1 が理解できる。	
		13週	L7 現在完了形 2	現在完了形 2 が理解できる。	
		14週	助動詞と現在完了形 補足	助動詞と現在完了形が理解できる。	
		15週	まとめ	まとめを通してドイツ語の基礎が理解できる (活用できる)。	
		16週			
モデルコアカリキュラムの学習内容及到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		中間試験	定期試験	合計	
総合評価割合		40	60	100	
基礎的能力		40	60	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	社会科学特論Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	05208		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	レジュメ・法令のコピーなどの資料を配布する。/ 『行政法Visual Materials』高橋滋 編著 (有斐閣) ISBN 978-4641131712、『はじめての行政法 第3版補訂版』石川敏行ほか (有斐閣) ISBN 978-4641220553、『行政法〔第5版〕』櫻井敬子・橋本博之 (弘文堂) ISBN 978-4335356605				
担当教員	見崎 史拓				
到達目標					
<p>(ア) 法学全体における行政法の位置づけを理解し、電気事業法・都市計画法・建築基準法などが行政法に属することを理解する。 (イ) 権力分立原理を踏まえ、国家権力行使の基本的な考え方となる「法律による行政の原理」を理解する。 (ウ) 建築基準法・都市計画法の定めから、伝統的な行政法学の考え方 (3段階構造モデル) を理解する。 (エ) 電気事業法や建築基準法がその内容の一部を政省令に委任している意味を、「法律による行政の原理」を踏まえて理解する。 (オ) 法命題 (法律要件と法律効果の組合せ) という観点から、行政行為の意味を理解する。 (カ) 行政行為の内容を建築基準法などから拾い出し、法律行為 (契約など) と比較して、理解する。 (キ) 個人情報保護のあり方を、関係データベースの考え方と関連させて、理解する。 (ク) 国・公務員の賠償責任 (たとえば河川の管理の瑕疵) について、民法の不法行為責任・製造物責任と関連させて、理解する。 (ケ) 日本の裁判制度・違憲審査制の特質を理解し、訴訟要件 (訴訟を提起するための前提条件) を理解する。</p>					
ループリック					
		理想的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安(可)	未到達レベルの目安	
評価項目(ア)		法学全体における行政法の位置づけ、行政法に属する法律 (都市計画法など) を理解している。	法学全体における行政法の位置づけを理解している。	法学全体における行政法の位置づけを理解していない。	
評価項目(イ)		権力分立原理を踏まえて、「法律による行政の原理」を理解している。	国家権力行使の基本的な考え方となる「法律による行政の原理」を、表面的に理解している。	「法律による行政の原理」が指し示す内容を知らない。	
評価項目(ウ)		建築基準法・都市計画法の定めから、行政法の考え方 (3段階構造モデル) を理解している。	行政法の考え方 (3段階構造モデル) を、表面的に理解している。	伝統的な行政法学の考え方 (3段階構造モデル) を知らない。	
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ① ものづくり能力					
教育方法等					
概要	<p>この科目では、行政法を中心に、工学と関連する法学の分野を扱っていく。電気事業法・都市計画法・建築基準法などの行政法を、専門科目として学修してきた学生もいるであろう。その学修のなかで、疑問に感じることがある。その疑問の多くは、法学特有の事情が理由であり、法学の観点から見れば理解しやすい。それを教えるのが、この科目の狙いである。</p> <p>この科目は、行政法というフィルターを通じて、これら個別行政法が「なぜそのように定められているのか？」などの疑問に答えていくことを目標としている。この目標を達成するため、行政法の授業の流れに従い、法学Ⅰおよび法学Ⅱの授業内容を再確認しつつ、毎回の授業内容と工学分野との関連性 (各授業内容に関連する主な達成度目標を示す) を述べていく予定である。</p>				
授業の進め方・方法	授業内容を理解しているを確認するために、毎回、小テストを実施する。難易度の高い問題は、レポートとして出題する。				
注意点	授業内容の[No.??]は、上記『行政法Visual Materials』の該当箇所を示している。予習・復習のために、図書館で、その箇所に目を通しておくことが望ましい。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	行政法序論—公法と私法の違い[No.1]、行政法と憲法・民法との関係	法学全体における行政法の位置づけを理解し、都市計画法などが行政法に属することを理解する。	
		2週	行政法の基本原理—法律による行政の原理[No.5]、3段階構造モデル (法律→行政行為→強制行為)	権力分立、国家権力行使の基本的な考え方となる「法律による行政の原理」を理解する。	
		3週	行政主体 (国) —憲法の定める国会と内閣の関係、国の行政組織[No.6]、行政機関・行政庁[No.10]	誰が行政権を行使できるのかを説明するために、「行政庁」などの専門用語を理解する。	
		4週	行政主体 (地方公共団体) —憲法・地方自治法の定める地方自治制度[No.7]、国と地方公共団体の関係[No.8]	地方自治に関するルールと国と地方公共団体の関係について理解する。	
		5週	行政立法—法規命令 (政令・省令) [No.24]、行政規則 (訓令・通達など) [No.25]	電気事業法や建築基準法がその内容の一部を政省令に委任している意味を理解する。	
		6週	行政計画—都市計画 (用途地域制度など)、用途地域内の建築物の用途制限[No.26]	建築基準法・都市計画法の定めから、伝統的な行政法学の考え方を理解する。	
		7週	行政行為の定義—行政行為の定義[No.12]、行政行為の分類[No.13]	法命題 (法律要件と法律効果の組合せ) という観点から、行政行為の意味を理解する。	
		8週	行政行為の効力—効力の内容 (公定力、不可争力など) [No.14]、無効な行政行為、行政行為の取消し・撤回[No.15]	法命題 (法律要件と法律効果の組合せ) という観点から、行政行為の意味を理解する。	
	4thQ	9週	実効性の確保—代執行・強制徴収[No.28]、即時強制 (破壊消防など) [No.29]、行政罰 (行政刑罰・秩序罰など) [No.30]	行政法に定められたルールに従わない場合の制裁として、どのようなものがあるかを理解する。	
		10週	行政処分—行政手続法の制定経緯とその内容[No.19]、行政裁量[No.16]	行政法のルールを実際に読み解き、その事前手続きを理解する。	
		11週	行政の非権力的活動形式—行政指導[No.23]、行政契約 (建築協定など) [No.27]	行政の非権力的活動形式 (行政指導・行政契約) を窓口行政を事例に理解する。	
		12週	情報法—情報公開[No.32]、個人情報保護[No.33]、個人情報にかかわる近時の問題	個人情報保護のあり方を、関係データベースの考え方と関連させて、理解する。	

		13週	国家賠償—不法行為制度との関連[No.43]、公権力行使に基づく責任[No.44]、営造物の設置管理にかかる責任[No.45]	国・公務員の賠償責任（たとえば河川の管理の瑕疵）について理解する。
		14週	行政訴訟—憲法の定める裁判制度、行政訴訟の種類[No.34]、行政訴訟（取消訴訟）の訴訟要件[No.38]	日本の裁判制度・違憲審査制の特質を理解し、訴訟を提起するための前提条件を理解する。
		15週	総合問題—憲法・民法・行政法に関わる近時の問題を扱う	憲法・民法・行政法に関わる近時の問題を知る。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	後15
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	後15
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	後15
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	後15
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	後15
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	後15
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	後15
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	後15
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	後15
				事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	後15
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	後15				

評価割合

	定期試験	小テスト	レポート	合計
総合評価割合	65	15	20	100
基礎的能力	65	15	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	人文科学特論Ⅱ
科目基礎情報					
科目番号	05209		科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	一般教育		対象学年	5	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない/村上陽一郎『科学・技術と社会』(ISU選書) ISBN: 4-89572-508-1, 池内了『科学・技術と現代社会 上・下』(みすず書房) ISBN:978-4-622-07834-0/978-4-622-07835-7				
担当教員	北野 孝志				
到達目標					
(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。 (イ)科学・技術に関する日本の現状について理解し説明できる。 (ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について考え、自分なりの意見を持つことができる。 (エ)エンジニアの社会的責任について理解し、様々な倫理的問題について主体的に考えることができる。					
ループリック					
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安
評価項目(ア)	科学・技術の歴史や、その思想的背景、さらには日本の現状について理解し、それをきっかけにして自分なりの考えを持つことができる。		科学・技術の歴史や、その思想的背景、」さらには日本の現状について理解し、説明できる。		科学・技術の歴史や、その思想的背景、さらには日本の現状について理解し、説明できない。
評価項目(イ)	科学・技術が抱えている現代的な課題について考え、自分なりの意見を持つことができる。		科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。		科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができない。
評価項目(ウ)	エンジニアの社会的責任について理解し、様々な倫理的問題について主体的に考えるとともに、問題解決に向けて主体的に考えることができる。		エンジニアの社会的責任について理解し、説明することができる。		エンジニアの社会的責任について理解し、説明することができない。
学科の到達目標項目との関係					
本校教育目標 ⑤ 技術者倫理					
教育方法等					
概要	現代において、科学・技術と社会とは切っても切り離せないものになっている。この授業では、こうした科学・技術に焦点を当て、世界や日本における歴史や思想、あるいは現代の倫理的問題など様々な問題を多面的に扱うことにより、科学・技術と社会という視点の重要さの認識を深めることを目的とする。また、エンジニアとして様々な問題を科学・技術との関わりから理解し、問題解決に向けて主体的に考える能力を身につけることも目標とする。				
授業の進め方・方法	それぞれの授業内容について、パワー・ポイントを使って説明する。理解度の確認のため、復習の課題も実施したりする。				
注意点	あらかじめ資料が提示された場合には、授業前に読んでおくこと。また、継続的に授業内容の復習を行うこと。				
選択必修の種別・旧カリ科目名					
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	科学・技術とは(1): 授業へのイントロダクション	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		2週	科学・技術とは(2): 「科」学の誕生と技術	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		3週	「技術哲学」のはじまり	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		4週	科学と技術の融合(1): 科学の利用と核兵器開発	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		5週	科学と技術の融合(2): 科学研究の変質	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		6週	第2次世界大戦と技術哲学	(ア)科学・技術の歴史や、その思想的背景について理解し説明できる。	
		7週	日本社会と科学・技術(1)	(イ)科学・技術に関する日本の現状について理解し説明できる。	
		8週	日本社会と科学・技術(2)	(イ)科学・技術に関する日本の現状について理解し説明できる。	
	4thQ	9週	科学・技術と社会: 科学・技術の政策	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。	
		10週	科学・技術と社会: 科学・技術の人材供給(1)	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。	
		11週	科学・技術と社会: 科学・技術の人材供給(2)	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。	
		12週	科学・技術と倫理的責任(1)	(エ)エンジニアの社会的責任について理解し、説明することができる。	
		13週	科学・技術と倫理的責任(2)	(エ)エンジニアの社会的責任について理解し、説明することができる。	
		14週	現代社会における科学・技術に関する様々な問題	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について理解し、説明することができる。	
		15週	授業のまとめ	(ウ)科学・技術が抱えている現代的な課題について考え、自分なりの意見を持つことができる。	
		16週			

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	社会	現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	後15
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に収集することができる。	3	後15
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	3	後15
				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要があることを知っている。	3	後15
				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について自己責任が発生することを知っている。	3	後15
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	3	後15
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	3	後15
				複数の情報を整理・構造化できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	3	後15
				どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。	3	後15
				適切な範囲やレベルで解決策を提案できる。	3	後15
事実をもとに論理や考察を展開できる。	3	後15				
結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現できる。	3	後15				

評価割合

	定期試験	課題	合計
総合評価割合	50	50	100
基礎的能力	50	50	100